

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

分野	科目	単位数	時間数	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	37 看護学原論	1	30	1年 前期	1 (45分)

科目担当者: 看護師★

学習目標	1. 看護の本質を理解し看護の概念を理解する。 2. 看護の対象としての人間を身体的・精神的・社会的統合一体として理解する。 3. 人間にとっての健康の意義について理解する。 4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し看護活動のあり方を理解する。 5. 看護の歴史と変遷を通して、現在の看護の位置づけと諸問題を理解する。				
回	教育内容				講義方法
1回 2回	1. 看護とは 1) 看護の本質 (1) 看護の変遷 (2) 看護の定義 2) 看護の概念 (1) 看護を構成する主要概念 人間、健康、環境(社会)、看護 3) 看護の役割と機能 (1) 看護ケア (2) 看護実践と質の保証 (3) 看護理論家の看護概念				アクティブラーニング 講義 グループワーク
3回 4回	2. 看護の対象理解 1) 人間のこことからだ 人間の欲求(ニード) 2) 個人の理解 (1) 生涯発達ごとの個人の理解 (2) 健康状態ごとの個人の理解 (3) 生活と療養の場ごとの個人の理解 3) 集団の理解 (1) 家族という集団 (2) 地域社会という集団				講義
5回 6回	3. 人間にとっての健康 1) 健康とは (1) 健康の定義 (2) 日本の健康状態、健康意識 2) ライスサイクルと健康				講義
7回 8回	4. 看護の役割 1) 職業としての看護 (1) 看護職の資格・養成制度・就業状況 (2) 継続教育とキャリア開発 (3) 看護職の養成制度の未来と課題				講義 グループワーク
9回 10回	5. 看護における倫理 1) 職業倫理と看護倫理 2) 看護の対象者の意思決定と守秘義務 3) 専門職の倫理規定 倫理綱領 4) 倫理的ジレンマ				講義 グループワーク

11 回	6. チーム医療における看護の提供のしくみ 1) サービスとしての看護 2) 看護提供の場とチーム医療 3) 看護をめぐる制度 4) 医療安全と医療の質の保証	講義 グループワーク
12 回 13 回	7. 看護の実践 1) 看護技術の基本原則 2) 看護技術の特徴 3) 看護技術の範囲 4) 看護技術を適切に実践するための要素	講義 グループワーク
14 回	8. 広がる看護活動領域 1) 国際化と看護 2) 災害時の看護	講義 グループワーク
15 回	まとめ/終講試験	
評価方法	筆記試験 70% レポート 20% グループ発表 10%	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【1】 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院	
参考文献	看護がみえる Vol.5 対象の理解 I メディックメディア 国民衛生の動向 2024/2025 厚生統計協会	

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	レポート・発表資料に取り組む
-----------	-------	-----------	----------------

分野	科目	単位数	時間数	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	38 基礎看護学方法論Ⅰ (看護の共通基本技術)	1	30	1年 前期	1 (45分)

科目担当者: 非常勤講師・看護師

学習目標	1. 看護における人間関係を理解し、効果的なコミュニケーションの基礎的技術を習得する。 2. 看護活動における基本的技術を理解する。				
回	教育内容			講義方法	
1回	1. ガイダンス 1) 自己のコミュニケーションスキル 2) 挨拶、自己紹介 (1) 挨拶と自己紹介のマナー、注意点			講義 演習	
2回	2. 正しい日本語を使う 1) 正しい日本語 (1) わかりやすい話し方 2) 敬語や謙譲語 (1) 敬語を使う (2) コミュニケーションを円滑にする言葉			講義 演習	
3回	3. 話すスキルと聴くスキル 1) まとまった内容をわかりやすく伝える話し方 2) 傾聴のスキル 3) メモをとる (1) メモの取り方の見直し (2) メモの内容をわかりやすく伝える方法			講義 演習	
4回	4. 表現法 1) 相手の気持ちを考えながら自己主張する 上手に断る ①アサーティブ表現法 ②DESC法			講義 演習	
5回	5. 共同学習の様々な技法 1) 意見を出し合う ①ブレインストーミング ②KJ法			講義 演習	
6回	6. 説明する 発表する 1) 相手の立場に立った伝え方 2) 感情をコントロールするスキル ① 自分の様々な感情を自覚 ② 個人が他者に与える影響			講義 演習	
7回 8回	7. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法 1) コミュニケーションの意義と目的 2) コミュニケーションの構成要素(カウンセリングを含む) 3) コミュニケーションのプロセスと影響する因子 4) ケアリングとコミュニケーション 5) 関係構築のためのコミュニケーションの基本			講義 演習	
9回	8. 効果的なコミュニケーションの実践			講義	

	1) 傾聴の技術 2) 情報収集の技術 3) 説明の技術 4) アサーティブネス	演習
10 回	9. コミュニケーション障害への対応 1) コミュニケーションに障害のある人の特徴 2) 言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3) コミュニケーション障害がある人への対応	講義 演習
11 回	10. オンラインコミュニケーション 1) オンラインコミュニケーションの機会の増加 2) オンラインコミュニケーションのポイント	講義 演習
12 回 13 回 14 回	11. 記録・報告 1) 看護記録とは (1) 看護記録の法的位置づけ (2) 看護記録の規定 (3) 看護記録の目的と機能 (4) 看護記録の電子化 2) 記録・管理における留意点 (1) 看護記録の記載基準 (2) 記録の管理と守秘義務 (3) 看護記録の訂正 (4) 看護学生の臨地実習における記録の記載 3) 看護記録の構成 (1) 基礎情報 (2) 看護計画 (3) 経過記録 (4) 看護サマリー 4) 看護における報告 (1) 看護における報告の意義 (2) 報告方法	講義 演習
15 回	まとめ／終講試験	
評価方法	筆記試験 60% レポート 10% グループ発表 30%	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 【2】【3】 看護学概論 医学書院 看護系学生のための日本語表現トレーニング 三省堂	
参考文献	看護がみえる Vol.5 対象の理解 I メディックメディア	

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	レポート・発表資料に取り組む
-----------	-------	-----------	----------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

分野	科目	単位数	時間数	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	39 基礎看護学方法論Ⅱ (看護の共通基本技術Ⅱ)	1	30	1年 前期	1 (45分)

科目担当者：看護師★

学習目標	1. 感染予防および感染予防における看護師の役割を理解する。 2. 感染予防に必要な基礎的看護技術を習得する。 3. 看護活動における基本的技術を理解する。				
回	教育内容				講義方法
1回	1. 感染とその予防の基礎知識 1) 感染と感染症 2) 感染成立の条件 3) 感染予防 4) 院内感染の成立				講義
2回 3回	2. 標準予防策 1) 標準予防策の基礎知識 2) 対策の実際 (1) 手指衛生 (2) 個人防護具 (PPE) (3) 患者ケアに使用した器具 (4) 環境対策 (5) リネン (6) 鋭利なものの取り扱い (7) 患者の蘇生など救急時の対応 (8) 患者配置 (9) 呼吸器衛生／咳エチケット (10) その他				講義 演習 ＊技術チェック
4回	3. 感染経路別予防策 1) 感染経路別予防策の基礎知識 2) 接触予防策 3) 飛沫予防策 4) 空気予防策				講義
5回	4. 洗浄・消毒・滅菌 1) 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 2) 洗浄 3) 消毒と滅菌				講義
6回 7回	5. 無菌操作 1) 無菌操作の基本知識 2) 対策の実際				講義 演習
8回	6. 針刺し防止策 1) 針刺し防止の基礎知識 2) 対策の実際				講義
9回	7. 医療施設における感染管理 1) 感染管理のための組織と業務 2) 感染症発生時の対応				講義 演習
10回	8. 安全確保の基礎知識 1) 誤薬防止				講義

	2) チューブ類の事故防止 3) 患者誤認防止	
11 回	9. 転倒・転落防止 1) 転倒・転落防止の基礎知識 2) 転倒・転落防止の実際	講義
12 回	10. 薬剤・放射線暴露の防止 1) 抗がん薬暴露の防止 2) 放射線暴露の防止	講義
13 回	11. 学習支援 1) 学習支援の対象者と看護の役割 2) 学習の基礎知識 3) 学習支援の基礎知識	講義
14 回	12. 学習支援の技術 1) 学習支援の進め方 2) 学習支援の方法 3) 学習支援の実際	講義
15 回	まとめ／終講試験／技術チェック	
評価方法	筆記試験 60% レポート（課題）他 40%	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】医学書院	
参考文献	看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア	

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

分野	科目	単位数	時間数	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	40 基礎看護学方法論Ⅲ (ヘルスアセスメント)	1	30	1年 前期	1 (45分)

科目担当者： 看護師★

学習目標	1. 全身状態を系統的に把握するためのヘルスアセスメントの意義・目的およびその方法について理解する。 2. バイタルサインの基礎的知識を理解し、その測定技術を習得する。 3. フィジカルアセスメントに必要な看護技術を習得する。 4. フィジカルアセスメントで収集した情報から必要な看護を導き出すことができる。	
回数	教育内容	講義方法
1 回	1. 看護におけるヘルスアセスメントの考え方 1) ヘルスアセスメントとは 2) アセスメントのプロセス	講義
2 回	2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 1) 問診の技術 2) ヘルスストーリー	講義
3 回 4 回	3. 全体の概観 1) フィジカルアセスメントに必要な技術 2) 全身状態・全体印象の把握 3) バイタルサインの観察とアセスメント 4) 計測	講義
5 回 6 回	4. フィジカルアセスメントに必要な技術 1) バイタルサイン 2) 計測 3) パルスオキシメーター	演習 ＊技術チェック
7 回	5. 系統別フィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントの特徴 2) 呼吸器	講義・演習
8 回	3) 循環器	講義・演習
9 回	4) 乳房、腋窩 5) 腹部（消化器）	講義・演習
10 回	6) 筋・骨格 7) 神経系	講義・演習
11 回	8) 頭頸部と感覚器 9) 外皮系	講義・演習
12～13 回	6. 心理・社会状態のアセスメント	講義
14 回	技術 バイタルサイン	技術チェック
15 回	まとめ／終講試験	
評価方法	筆記試験 60％ 課題 10％ 技術チェック 30％	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア	
備考		

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

分野	科目	単位数	時間数	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	41 基礎看護学方法論Ⅳ (生活援助技術Ⅰ)	1	30	1年 前期	1 (45分)

科目担当者：看護師★

学習目標	1. 食事の意義、意味を理解し、食生活を整えるために必要な看護技術を習得する。 2. 排泄の意義を理解し、排泄機能障害・排泄行動の自立度に応じた看護技術を習得する。	
回数	教育内容	講義方法
1 回	1. 食事・排泄の意義、メカニズム	講義
2 回	2. 食事援助の基礎知識 1) 栄養状態及び摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント 2) 医療施設で提供される食事の種類と形態	講義
3 回	3. 食事摂取の介助 1) 援助の基礎知識	講義
4 回 5 回	2) 援助の実際	演習
6 回	4. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管栄養法 2) 中心静脈栄養法	講義
7 回	5. 排泄に関連したアセスメント 1) 患者の状態に応じた援助の決定 2) 排尿、排便のアセスメント 3) 移動動作のアセスメント 4) 心理・社会的状態のアセスメント	講義
8 回	6. 自然排泄の介助の基礎知識 1) トイレにおける排泄介助 2) 床上排泄援助 3) おむつによる排泄援助 4) 陰部洗浄	講義
9 回 10 回	7. 自然排泄の介助の実際	演習
11 回	8. 排泄を促す援助の基礎知識 1) 排尿、排便を促す援助の基礎知識 2) 一時的導尿 3) 浣腸 4) 摘便	講義
12 回 13 回	9. 排泄を促す援助の実際 1) 一時的導尿 2) グリセリン浣腸	演習
14 回	3) 持続的導尿 4) 摘便	講義
15 回	まとめ／終講試験	
評価方法	筆記試験 60％ レポート 40％	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア	
備考		

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

分野	科目	単位数	時間数	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	42 基礎看護学方法論Ⅴ (生活援助技術Ⅱ)	1	30	1年 前期	1 (45分)

科目担当者：看護師★

学習目標	1. 清潔および衣生活の意義を理解する。 2. 清潔援助の方法や衣生活の援助技術について習得する。	
回数	教育内容	方法と留意点
1 回	1. 清潔の意義 2. 衣生活の基礎知識 1) 衣生活の意義 2) 体温調節と衣服	講義
2 回	3. 衣生活の援助の実際 1) 病衣の選び方 2) 寝衣の交換	講義
3 回	4. 清潔援助の基礎知識 1) 清潔援助の効果 2) 患者の状態に応じた援助の決定 5. 清潔を整える看護技術 1) 入浴・シャワー浴	講義
4 回	2) 全身清拭 基礎知識	講義
5～6 回	3) 全身清拭・寝衣交換の実際	演習
7 回	4) 洗髪の基礎知識 5) 口腔ケアの基礎知識	講義
8 回	6) 手浴、足浴の基礎知識	演習
9 回	7) 洗髪、口腔ケアの実際	講義
10～11 回	8) 洗髪、手浴、足浴の実際	演習
12 回	6. 整容	講義
13～14 回	技術チェック 清拭、寝衣交換	技術チェック
15 回	まとめ／終講試験	
評価方法	筆記試験 60% レポート 10% 技術チェック 30%	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア	
備考		

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

分野	科目	単位	時間	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	43 基礎看護学方法論Ⅵ (生活援助技術Ⅲ)	1 単位	30 時間	1 年 前期	1 (45 分)

科目担当者： 看護師★

学習目標	1. 活動と休息の意義と重要性を理解し、活動を促すおよび睡眠・休息を整えるために必要な看護技術を習得する。 2. 姿勢と看護場面における効率的動作について理解し、安全・安楽な体位の移動と変換の看護技術を習得する。 3. 環境の意義を理解し、療養環境を整えるための看護技術を習得する。	
回数	教育内容	講義方法
1 回	1. 姿勢と動作 1) 姿勢 2) 体位と肢位 ・体位 ・肢位	講義
2 回	2. 動作	講義
3 回	3. ボディメカニックスの原則と実際	演習
4 回	1) ボディメカニックスの原則と実際 2) ボディメカニックスにかかる基礎知識 (1) 姿勢や動作の安定性 (2) 看護に役立つ物理法則 (3) 作業域と作業姿勢 3) 良い姿勢・動作のためのボディメカニックス	
5 回	4) 援助の基礎知識	講義
6 回	・車椅子を用いる場合の実際	演習
7 回	・ストレッチャーを用いる場合の援助の実際 ・移乗用リフトを用いる場合の援助の実際	
8 回	4. 睡眠・休息の援助	講義・アクティ
9 回	1) 援助の基礎知識 2) 睡眠休息の援助	ブラーニング
10 回	5. 環境調整技術	講義・アクティ
11 回	1) 環境調整の基礎知識 (1) 環境と看護 (2) 病床の環境	ブラーニング
12 回	6. 療養調整援助の実際	講義
13 回	1) 病床の環境整備 2) ベッドメイキング	演習
14 回	3) 臥床患者のシーツ交換	技術チェック
15 回	まとめ／終講試験／技術チェック	
評価方法	筆記試験 60% レポート（課題）10% 技術チェック 30% 【シーツ交換】	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア	
備考		

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

分野	科目	単位	時間	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	44 基礎看護学方法論Ⅶ (治療・処置別看護)	1 単位	30 時間	1 年 後期	1 (45 分)

科目担当者： 看護師★

学習目標	1. 呼吸を整えるための援助方法について理解し、安全かつ正確な技術を習得する。 2. 創傷・褥瘡の予防的援助、治療的援助方法について理解し、皮膚・粘膜の保護に必要な技術を修得する。 3. 苦痛緩和・安楽確保のための援助について理解し、その援助技術を習得する。 4. 与薬の意義、目的、種類を理解し、与薬を受ける患者への安全な看護技術を習得する。	
回数	教育内容	講義方法
1 回 2 回 3 回 4 回	1. 呼吸・循環を整える技術 1) 気道の管理 (1) 気道管理の基礎知識 (2) 気道管理の援助の実際 ・安楽な呼吸法 ・体位ドレナージ ・咳嗽介助、ハフティング ・吸入 ・吸引 2) 酸素療法 3) 人工呼吸療法 4) 体温管理 5) 循環促進ケア	講義 演習
5 回 6 回 7 回	2. 創傷管理技術 1) 創傷管理の基礎知識 2) 創傷処置 (1) 術後一縫合創とドレーン創の処置 (2) 創洗浄と創保護 (3) テープによる皮膚障害 (4) 包帯法 3) 褥瘡予防	講義 演習
8 回 9 回 10 回 11 回 12 回 13 回 14 回	3. 与薬の技術 1) 与薬の基礎知識 (1) 薬物の基本的性質 (2) 看護師の役割 2) 経口与薬・口腔内与薬 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際 3) 吸入 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際	講義 演習

	4) 点眼・点入 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際 5) 点鼻 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際 6) 経皮的与薬 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際 7) 直腸内与薬 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際 8) 注射 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実施法 ・皮下注射 ・皮内注射 ・筋肉内注射 ・静脈内注射 9) 輸血管理	
15 回	まとめ／終講試験	
評価方法	筆記試験 90% 課題学習 10%	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア	
備考		

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

分野	科目	単位	時間	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	45 基礎看護学方法論Ⅷ (診療に伴う技術)	1 単位	30 時間	1 年 後期	1 (45 分)

科目担当者： 看護師★

学習目標	1. 検査・治療の意義・目的を理解し、看護師の役割を理解する。 2. 検査・処置を受ける患者への看護技術を習得する。 3. 苦痛緩和・安楽確保のための援助について理解し、その援助技術を習得する。 4. 死の看取りの援助について理解し、その援助技術を理解する。		
回数	教育内容		方法と留意点
1 回	1. 診察、検査の介助 2. 検体検査 1) 検体検査の基礎知識 2) 血液検査 3) 尿検査 4) 便検査 5) 喀痰検査		講義
2 回	3. 生体情報モニタリング 1) 心電図モニター 2) 血管内留置カテーテルモニターを使用したモニタリング		講義
3～4 回	4. 検査・処置の介助 1) X線検査 2) CT 3) MRI 4) 内視鏡検査 5) 超音波検査 6) 心電図検査 7) 肺機能検査 8) 核医学検査 9) 穿刺		講義
5 回	5. 静脈血採血の基礎知識		講義
6～7 回	6. 静脈血採血の実際		演習
8 回	7. 苦痛の緩和・安楽確保の技術 1) 薬法の基礎知識 2) リラクゼーションの基礎知識		講義
9 回	8. 薬法・リラクゼーションの実際		演習
10～11 回	9. 死の看取りの援助 1) 死にゆく人と周囲の人々へのケア 2) 死後のケア		講義
12～14 回	10. 総合技術 1) 静脈内採血		技術試験
15 回	まとめ／終講試験		
評価方法	筆記試験 60% レポート 40% , 実技 100%		
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア		
備考			

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

分野	科目	単位	時間	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	46 基礎看護学方法論Ⅸ (看護過程)	1	30 時間	2 年 前期	1 (45 分)

科目担当者： 看護師★

学習目標	1. 看護実践における看護過程の意義、目的を理解する。 2. 看護過程の構成要素を理解する。 3. 様々な対象をとらえる過程を理解する。 3. 系統的で意図的な思考過程としての看護の展開方法を理解する。 4. 事例の演習を通して、臨床判断過程を身につける。				
回数	教育内容			講義方法	
1 回	1. 看護過程の基本となる考え方 1)看護過程とは何か (1) 看護過程の構成要素 (2) 構成要素の関連性 (3) 看護過程の利点 2) 日常生活の中での看護過程 3) 看護過程の基盤となる考え方 (1) 問題解決過程 (2) クリティカルシンキング (3) 情報分析 (4) 倫理的配慮と価値判断 (5) リフレクション 4) 臨床判断モデル			講義	
2 回	2. 対象の捉え方 1) 人が生きる上での「健康と健康障害」 2)対象を捉えるアセスメントの枠組み			講義	
3 回	3. 情報源と情報の種類 1) 主観的情報と客観的情報 2) データ収集方法 3) 情報の分類と整理 (1) アセスメントの過程とアセスメントの視点 (2) アセスメントの枠組みに沿った情報			講義 演習	
4 回 5 回	4. 情報分析方法 1)情報の分類と整理 2) 情報の意味・解釈 3) 統合			講義 演習	
6 回 7 回	5.関連図とは、関連図の役割、種類 書き方			講義 演習	
8 回 9 回	6. 看護診断 1)看護診断名 2)関連（リスク）因子 3)症状徴候 7.照合、看護診断の表記 8. 看護問題と共同問題			講義 演習	

	9. 優先順位の考え	
10 回 11 回	10. 看護目標と成果 1)看護目標 2)OUTCOME 11. 看護計画立案のプロセス 1) 具体的方法 2) 実施上の留意点（安全、安楽、自立） 3) 倫理的配慮 12. 標準看護計画 13. クリティカルパス	講義 演習
12 回 13 回 14 回	14. 実施 1)実施上の留意点（安全、安楽、自立） 2)倫理的配慮（説明と同意、プライバシー） 15. 評価 1)評価の視点および時期 2)看護計画の修正 3)リフレクション	講義 演習
15 回	まとめ	
評価方法	課題 100%	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】 基礎看護技術 I 医学書院 NANDA - I 看護診断 定義と分類 医学書院 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント・学研	
備考	シミュレーション学習を含む 看護診断の改正により教科書の変更があります。	

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	テキストで事前・事後学習を行う
-----------	-------	-----------	-----------------

分野	科目	単位	時間	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	47 看護研究	1 単位	30 時間	3 年	

科目担当者：看護師

学習目標	1. 看護研究の意義とプロセスを理解する。 2. 文献検索の方法を理解する。 3. 看護研究の手法を活用し、ケーススタディレポートをまとめることができる。				
回数	教育内容				講義方法
1 回 2 回	1. 看護研究の意義・必要性・重要性 2. 研究の条件 1) EBNとは 2) 研究疑問とは 3. 看護理論と看護研究 4. 看護研究における倫理的配慮				講義
3 回 4 回	5. 研究の種類と研究の方法 1) 研究デザイン 6. 研究過程 7. 研究計画書の必要性和書き方 8. 研究論文の種類と構成 9. 抄録の作成と発表方法				講義
5 回	10. 文献検索の意義・文献の探索法 1) 文献の読み方、整理の仕方				演習
6 回 7 回	11. 文献検討の実際 1) 文献検討 (1) 研究計画書				講義 演習
8 回	12. 研究クリティークと研究成果の活用 1) 論文の読み方 (1) 論文の構成 (2) クリティーク				講義 演習
9 回	13. クリティークの実際 1) 文献の活用				講義
10 回	14. 看護の振り返り方法 1) 意義 2) 目的 3) 理論と研究との関係 4) 看護実践の中の研究的な視点 5) 論文作成にあたっての倫理的配慮 6) 研究計画と文献検討 (1) テーマの設定 (2) 計画書の作成				講義 演習
11 回	15. 論文の構成要素と内容 1) 表題 2) はじめに 3) 事例紹介 4) 看護の実際 5) 考察 6) 結論				講義

	看護実践の意味づけ 7) おわりに 16. 論文記載への取り組み方	
12 回	17. 論文作成 1) 研究論文作成の実際と指導	講義 演習
13 回	18. 発表準備の方法 1) 抄録の作成 2) 口頭発表の内容 (1) 発表原稿・スライド (2) ポスターセッション (3) 分かりやすいプレゼン	演習
14 回	19. 論文発表 1) 発表会 2) 講評	演習
15 回	まとめ	演習
評価方法	課題 100%	
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院	
備考	埼玉県看護学生研究発表会集録	

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	テキスト、文献で事前・事後学習を行う 課題に取り組む
-----------	-------	-----------	-------------------------------

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 基礎看護学	48 基礎看護学実習 I	2 単位	80 時間	1 年次後期

科目担当者：専任教員

実習目的	対象の生活する療養環境を知り、対象の状況に応じた日常生活援助を学ぶ
	実習目標及び内容
	1) 対象の生活の場としての療養環境について知ることができる。 (1) 看護サービスの提供の場の病院と看護について記述（説明）できる。 (2) 病院における看護について記述（説明）できる (3) 看護サービス提供の場を担う職種について記述（説明）できる。 (4) 対象が生活している病棟の構造について記述（説明）できる (5) 対象が生活している療養環境を知ることができる。 (6) 対象の療養環境調整の必要性について考えを記述（説明）できる。 2) 療養の場における対象を生活者として捉えることができる。 (1) 対象に合わせた言葉づかい・身だしなみ・態度で関わるることができる。 (2) 対象の訴えをありのまま聴くことができる。 (3) 言語的・非言語メッセージを知ることができる。 (4) 対象の反応を確認し、コミュニケーションを図ることができる。 (5) 対象の身体的・心理的・社会的側面を把握するための情報収集ができる。 3) 対象の状況に応じた日常生活援助が実施できる。（環境） (1) 対象の状況に応じた援助の必要性を記述（説明）できる。 (2) 対象に必要な援助を計画することができる。 (3) 援助前の対象の状態を観察し、立案した計画が実施可能か判断することができる。 (4) 立案した計画に基づき、対象の反応を確かめながら援助が実施できる。 (5) 安全を守り、安楽・自立に配慮した援助が実施できる。 (6) 援助の根拠、計画、実施の過程を振り返ることができる (7) 状況に応じて報告・連絡・相談することができる。 4) 保健医療チームの一員として、看護者に求められる基本的姿勢を身につける。 (1) 感染予防策が実施できる。 (2) 時間管理をし、責任を持った行動がとれる。 (3) よりよい看護を実践するために、主体的に学習に取り組むことができる。 (4) チームの一員として適切な人間関係をもつことができる。
評価方法	評価表に基づき評価する

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 基礎看護学	49 基礎看護学実習Ⅱ	2 単位	80 時間	2 年次前期

科目担当者：専任教員

実習目的	患者への看護援助の実践を通して対象を総合的に理解し、看護過程の展開ができる基礎的能力を養う。
	実習目標及び内容
	1) 受け持ち患者への看護実践に看護過程の展開技術を適応し、問題解決技法の基礎を理解する。 (1) 患者の看護に必要な情報を収集ができる。 (2) コミュニケーションスキルを活用し、看護に必要な状況を収集できる。 (3) アセスメントツールを活用し情報の整理ができる。 (4) 各領域の示す健康指標に合わせた情報の解釈・分析ができる。 (5) 情報を関連させながら逸脱している（健康時の基準値）誘因・原因を推測することができる。 (6) 患者の反応の解釈・分析から全体像を用いて統合できる。 (7) 対象の望ましい状態を考え、看護問題を抽出できる。 (8) 対象の状態にあわせた優先順位の決定ができる。 (9) 対象の看護問題を解決するための具体的な目標が設定できる。 (10) 対象の個別性や強みを生かした具体的な立案ができる。 (11) 対象の安全・安楽を考慮した方法で実施できる。 (12) 対象の反応をとらえ、コミュニケーションを図りながら実施できる。 (13) 実施した内容を踏まえ正確に要点を整理して報告できる。 (14) 実施した看護援助の評価ができる。 (15) 立案した看護計画の評価ができる。 2) 保健医療福祉チームの一員として、看護職に求められる姿勢を身につける。 (1) 感染予防対策が実施できる。 (2) 自己の健康管理ができる。 (3) 自分の役割を自覚し、責任を持った行動がとれる。 (4) よりよい看護を実践するために、主体的に学習する姿勢がある。 (5) チームの一員として適切な人間関係をもつことができる。
評価方法	評価表に基づき評価する

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 地域・在宅看護論	50 地域・在宅看護概論	1 単位	15 時間	1 年

科目担当者： 看護師

学習目標	1. 在宅看護の概念を理解する。 2. 社会の変革と現代社会における在宅看護の必要性を理解する。 3. 対象が療養する地域・生活の場を理解する。 4. 地域で生活しながら療養している人々とその家族を理解する。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1 回	1. 地域と生活と健康 1) 地域と生活と健康 2) 地域包括ケアシステムと共生社会 ・高齢者を対象とした地域包括ケアシステム ・小児を対象とした地域包括ケアシステム ・障害者を対象とした地域包括ケアシステム	講義 90 分 講義 90 分	
2 回	3) 地域アセスメント		
3 回	演習：地域アセスメント演習	演習 90 分	
4 回	2. 地域看護 1) 地域看護と在宅看護 2) 地域・在宅看護の背景 3) 地域看護の実践 ・病院 ・地域包括支援センター ・行政：保健所・市町村保健センター	講義 90 分 講義 90 分	
5 回	3. 在宅看護 1) 在宅看護の基盤 2) 地域療養を支える在宅看護の役割・機能 3) 地域・在宅看護における倫理 4) 地域包括ケアシステムにおける 多職種・多機関連携	講義 90 分	
6 回	4. 地域・在宅看護の対象者 1) 地域・在宅看護の対象者 2) 在宅看護の対象者とサービス提供者側の条件 3) 在宅療養の場における家族の捉え方 4) 在宅療養者の家族への看護	講義 90 分	
7 回	講義のまとめ・テスト	試験 45 分	
評価方法	ワーク、筆記試験		
教科書	ナースンググラフィカ 地域・在宅看護論① 看護がみえる vol.5 対象の理解 I		

備考	系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の基盤 医学書院
----	----------------------------------

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 地域・在宅看護論	51 地域・在宅看護方法論 I	1 単位	30 時間	2 年

科目担当者： 看護師

学習目標	1. 在宅看護の提供の場とそれぞれの特徴を理解する 2. 地域での療養生活に必要な継続看護と支援体制について理解する。 3. 地域で生活する療養者とその家族を支える社会資源について理解する 4. 在宅療養者とその家族を支える地域包括ケアシステムを理解する。 5. 訪問看護の特徴について理解しサービスの展開、記録までの流れがわかる。			
回数	教育内容	時 間	方法と留意点	
1 回	1. 在宅療養を支える訪問看護 1) 訪問看護の特徴 ・訪問看護の制度 ・訪問看護における看護職の役割	講義 90 分	演習：GW	
2 回	2) 在宅ケアを支える訪問看護ステーション ・訪問看護ステーションの開設基準 ・対象者	講義 90 分		
3 回	・訪問看護制度の課題			
4 回	演習：訪問看護ステーションを設立しよう	演習 180 分		
5 回	2. 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント 1) ケースマネジメント/ケアマネジメント 2) 介護保険制度におけるケアマネジメント 3) ケースマネジメント/ケアマネジメントの過程 4) 地域包括ケアと地域ケア会議 ・地域ケア会議の 5 つの機能 ・地域ケア会議の設置主体と関係職種	講義 90 分		
6～7 回	3. 地域療養を支える法・制度 1) 社会資源の活用 2) 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 ・成年後見制度 3) 医療保険制度 4) 介護保険制度 ・介護予防サービス・介護サービスの給付手続き	講義 180 分		
8～9 回	5) 高齢者施策 ・認知症施策 ・高齢者虐待防止法	講義 180 分		
10 回	6) 障害者に関連する法律 ・障害者総合支援法 ・精神保健福祉法 ・障害者を支える手当・年金	講義 90 分		

11～12 回	7) 難病法 8) 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 9) 生活保護制度 演習：ライフステージに対応する主な法・制度	演習 180 分	個人ワーク
13 回	4. 在宅療養を支える健康危機・災害対策	講義 90 分	
14 回	1) 在宅療養における健康危機・災害対策 2) 地域包括ケアシステムにおける健康危機・災害対策 3) 訪問看護師による健康危機・災害時対応 4) 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理	講義 90 分	
15 回	講義のまとめ・テスト	講義 45 分 試験 45 分	
評価方法	グループワークの参加度と発表、筆記試験		
教科書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 看護がみえる vol.5 対象の理解 I		
備考	系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の実践 医学書院		

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 地域・在宅看護論	52 地域・在宅看護方法論Ⅱ	1 単位	30 時間	2 年

科目担当者：看護師

学習目標	1. 在宅療養生活を支える基本的な技術が理解できる・ 2. 在宅で求められる看護技術を習得する。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1～2 回	1. 地域・在宅療養者の看護の特徴 1) 病期に応じた在宅療養者への看護 ・慢性期の在宅療養者と家族の看護 ・急性増悪した在宅療養者と家族の看護 ・終末期の在宅療養者と家族の看護	講義 180 分	
3～4 回	2. 在宅療養生活を支える基本的な技術 1) コミュニケーション ・在宅療養を支えるコミュニケーションの基本 ・コミュニケーション障害のある療養者の特徴	講義 180 分	
5～6 回	2) 在宅におけるアセスメント技術 ・ヘルスアセスメントの基本 ・生活からみるヘルスアセスメント ・身体状態のアセスメント 3) 環境整備 ・在宅療養環境の基本 ・療養環境が引き起こす障害の予防 ・福祉用具 ・環境整備に活用できる社会資源	講義 180 分	
7～8 回	4) 生活リハビリテーション 5) 感染予防 ・在宅における感染防止の基本 ・療養者に感染症が発症した場合の対応	講義 180 分	
9 回	3. 日常生活を支える看護技術 1) 食生活 ・食に関する包括的アセスメント ・食における援助の技術と実際 ・家族への支援 ・多職種連携、社会資源の活用 2) 排泄 ・在宅療養の場における排泄の基本 ・排泄のアセスメント ・多職種との連携、社会資源の活用と調整 3) 清潔	講義 90 分	
10 回	・清潔のアセスメント	講義 90 分	

11 回	・ 家族への支援 ・ 社会資源と多職種連携 4) 肢位の保持と移動 ・ 移動能力に関わる身体機能のアセスメント ・ 多職種との連携	講義 90 分	
12 回	5) 呼吸 ・ 呼吸に関するアセスメント ・ 多職種との連携、社会資源の活用と調整 6) 睡眠 ・ 睡眠のアセスメント ・ 睡眠援助の技術と実際 ・ 多職種との連携	講義 90 分	
13～14 回	4. 症状等に応じた看護技術 1) 発熱症状 ・ 発熱を引き起こす疾患・状態 2) 消化器症状 ・ 消化器症状を引き起こす疾患・状態 3) 薬物療法 ・ 薬物療法におけるアセスメント ・ 多職種との連携・社会資源の活用 4) 外来がん治療 ・ 外来がん治療におけるアセスメント ・ 外来通院中の在宅療養者に対する援助 ・ 社会資源の活用・調整	講義 180 分	
15 回	試験 講義のまとめ・テスト	まとめ 45 分 試験 45 分	
評価方法	筆記試験		
教科書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 看護がみえる vol.5 対象の理解 I		
備考	系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の実践 医学書院		

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 地域・在宅看護論	53 地域・在宅看護方法論Ⅲ	1 単位	30 時間	2 年

科目担当者：看護師

学習目標	1. 在宅療養者の健康状態に応じた生活援助技術を習得する。 2. 在宅で医療処置を必要とする療養者とその家族が必要とする援助技術を理解する。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1～2 回	1. 療養を支える看護技術(医療ケア) 1) 排痰ケア ・排痰ケアにおけるアセスメント ・排痰ケアで生じやすい合併症・トラブル ・多職種との連携	講義 90 分 演習 90 分	排痰ケア
3～4 回	2) 気管カニューラ管理 ・気管カニューラ管理におけるアセスメント ・療養者・家族への支援	講義 90 分 演習 90 分	鼻腔・口腔吸引 気管内吸引
5～6 回	3) 在宅酸素療法(HOT) ・在宅酸素療法におけるアセスメント ・療養者・家族への支援	講義 90 分 演習 90 分	在宅酸素機器の管理
7～8 回	4) 在宅人工呼吸療法(HMV) : 非侵襲的陽圧換気療法(NPPV) ・非侵襲的陽圧換気療法におけるアセスメント ・在宅における安全管理と援助 ・社会資源の活用・調整	講義 90 分 演習 90 分	
	5) 在宅人工呼吸療法(HMV) : 気管切開下間欠的陽圧換気療法(TPPV) ・気管切開下間欠的陽圧換気療法におけるアセスメント ・社会資源の活用・調整	講義 180 分	
9 回	6) 排尿ケア ・排尿ケアにおけるアセスメント ・社会資源の活用・調整	演習 90 分 演習 90 分	
	7) ストーマ管理 ・ストーマ管理におけるアセスメント ・療養者・家族への支援 ・社会資源の活用・調整	講義 90 分 講義 90 分	ストーマケア
10 回	8) 在宅経管栄養法(HEN) ・経管栄養法におけるアセスメント ・療養者・家族への支援 ・社会資源の活用	講義 45 分 試験 45 分	胃瘻処置・ケア 経管栄養
11 回	9) 輸液管理 (在宅中心静脈栄養法、末梢静脈栄養法) ・輸液管理におけるアセスメント ・療養者・家族への支援		

12 回	・社会資源の活用・調整 10) 褥瘡管理 ・褥瘡発生のリスクアセスメントの予防 ・リスクマネジメント ・療養者・家族への支援 ・多職種との連携		
13 回	11) 足病変のケア ・足病変のアセスメント ・リスクマネジメント ・療養者・家族への支援 ・多職種との連携 12) インスリン自己注射 ・インスリン自己注射におけるアセスメント ・療養者・家族への支援 ・社会資源の活用・調整		自己血糖測定 インスリン注射
14 回	13) 在宅 CAPD 管理 ・在宅 CAPD 管理におけるアセスメント ・リスクマネジメント ・療養者・家族への支援 ・社会資源の活用・調整 14) 疼痛管理 ・疼痛管理におけるアセスメント ・療養者・家族への支援 ・社会資源の活用・調整		
15 回	試験 講義のまとめ・テスト		
評価方法	筆記試験		
教科書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 看護がみえる vol.5 対象の理解 I		
備考	系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の実践 医学書院		

分野	科目	単位	時間	履修年次
----	----	----	----	------

専門分野 地域・在宅看護論	54 地域・在宅看護方法論Ⅳ	1 単位	30 時間	2 年
------------------	----------------	------	-------	-----

科目担当者：看護師

学習目標	1. 在宅看護の特徴をふまえた看護過程の展開ができる。 2. 在宅療養を支える災害対策について理解できる。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1～2 回	1. 在宅看護過程（事例展開演習） 「脳血管障害のある在宅療養者」 1) 在宅療養における看護過程の特徴 ・療養者・家族の生き方や思いに応じたゴール設定 ・経済力や価値観に応じて社会資源を活用	講義 180 分	
3～4 回	2) 在宅におけるヘルスアセスメント ・在宅におけるヘルスアセスメントの基本 3) 情報収集の項目とアセスメントのポイント 4) 在宅療養における看護過程の展開のポイント	講義 90 分 演習 90 分	
5～6 回	5) 長期目標と短期目標・優先順位 ・ゴール設定における優先順位のポイント	講義 90 分 演習 90 分	
7 回	4) 在宅看護計画の立案	演習 90 分	
8～9 回	5) 実施（技術演習） ・訪問時のマナー(学生の基本的姿勢・態度)	演習 180 分	
10～13 回	・洗髪 ・陰部洗浄 ・足浴 ・褥瘡処置	演習 270 分	
14 回	6) 評価・サマリー ・サマリーについて	講義 90 分	
15 回	講義のまとめ・テスト	講義 45 分 試験 45 分	
評価方法	看護過程記録		
教科書	ナースিং・グラフィカ 地域・在宅看護論② 看護がみえる vol.5 対象の理解 I		
備考	系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の実践 医学書院		

分野	科目	単位	時間	履修年次
----	----	----	----	------

専門分野 地域・在宅看護論	55 地域理解と多職種連携	1 単位	30 時間	2 年
------------------	---------------	------	-------	-----

科目担当者：看護師

学習目標	1. 地域特性および人々の生活に影響する要素とその関連性をとらえ健康への影響を考察する。 2. 地域に暮らす人々の健康ニーズと健康問題についてリサーチする。 3. 健康問題を解決するための取り組みがわかる 4. 多職種の役割と責務について多職種と共有する 5. 多職種間のコミュニケーション能力を身に着ける 6. 対象者の目標達成、ケアの質向上についてともに考えることができる		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1～2 回 3 回	1. 地域周辺の施設のリサーチ 1)病院、診療所 2)介護老人福祉施設 3)介護老人保健施設 4)介護療養型医療施設 5)特別養護老人ホーム 6)通所介護 7)通所リハビリテーション 8)看護小規模多機能型居宅介護	演習 180 分 発表 90 分	グループワーク
4～6 回	2. 地域周辺の散策と地域住民へのインタビューなど	演習 270 分	
7～8 回	3. 地域住民の健康ニーズと健康問題と健康を守るための地域の取り組み	演習 180 分	
9 回	4. 多職種の役割と責務	講義 90 分	
10～13 回	5. 多職種間のコミュニケーション力を身に着ける。	演習 360 分	
14～15 回	6. 事例検討	演習 180 分	
評価方法	地域リサーチ計画書、グループワーク参加度、レポート		
教科書	看護がみえる vol.5 対象の理解 I		
備考	系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の実践 医学書院		

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 地域・在宅 看護論	56 地域・在宅看護論実習 I	2 単位	80 時間	2 年

科目担当者：専任教員

実習目的	各施設の地域性を理解し、地域住民との交流を通し、地域の特性および地域住民の生活を捉え健康への影響を考察し、健康支援を実践する基本的能力を育成する。
	実習目標及び内容
	1) 地域および地域で生活する人々の理解ができる。 (1) 地域で生活する人々の理解 ・あらゆるライフサイクル ・あらゆる健康レベル ・多様な場でのインタビュー 2) 地域の特徴、地域で生活する人々の暮らしが理解できる。 (1) 市内の特徴 ・人口構成 ・地域の自然環境 ・生活の場 ・働く場 ・学習の場 (2) コミュニティとコミュニティ活動の実際 3) 地域包括ケアシステムにおける看護の役割および社会資源について理解できる。 (1) 地域包括ケアシステムにおける社会資源の活用の実際 ・自助・互助・公助・共助 (2) 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割 ・地域で活動する多職種 ・多職種連携の実際 ・病院と地域を結ぶ役割 4) 地域で生活する人々の健康問題を理解し、健康支援活動・介護予防活動の特徴を理解できる。 ・地域および地域で生活する人々の健康問題 ・地域で行われる健康支援活動(健康づくり)の実際 ・地域で行われている介護予防活動の実際 ・地域で生活する人々を取り巻く多職種の役割 ・地域で生活する人々を支える多職種連携
評価方法	評価表に基づき評価する

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 地域・在宅 看護論	57 地域・在宅看護論実習Ⅱ	2 単位	80 時間	2 年次後期から 3 年次前期

科目担当者：専任教員

実習目的	住み慣れた地域で生活する対象者とその家族の健康レベルと生活環境の全体像を捉え地域包括ケアチームの一員として、療養生活の QOL 維持向上を目指す看護実践に必要な基本的知識・技術・態度を習得する。
	実習目標及び内容
	<在宅療養者とその家族を支える看護> 【 訪問看護ステーション 】 1. 実習目標 1) 訪問看護ステーションの特徴と看護の役割が説明できる。 2) 訪問看護の対象者（健康障害・生活機能障害のある在宅療養者、介護予防を要する高齢者）とその家族を全体的（生活・医療）に理解できる。 3) 在宅療養者とその家族の健康問題と生活上の問題を明らかにし、健康管理や生活に視点を置いた包括的・継続的な看護計画を立案することができる。 4) 在宅療養者とその家族の介護方法や価値観を尊重した看護の実践が理解できる。 5) 在宅療養者とその家族を支えるケアマネジメント（対象者・サービス調整者・社会資源をむすびつける）過程の実際と看護の役割が理解できる。 6) 在宅療養者とその家族の主体性を尊重したコミュニケーションをとることができる。 <地域で生活する対象とその家族を支える地域包括ケア> 【 地域包括支援センター・介護サービス等・福祉用具 】 1. 実習目標 1) 地域包括支援センターの役割・機能が理解できる。 2) 地域包括支援センターの対象の健康状態、生活におけるニーズや課題を知り、高齢者尊厳の保持・自立生活の支援の実際が理解できる。 3) 地域で生活する対象やその家族を支える在宅医療の実際と役割・機能が理解できる。 4) 居宅サービスを利用しながら地域で生活する対象とその家族を全体的に理解する。 5) 地域包括ケアシステムにおける多職種の連携・協働の実際を知り、包括的・継続的な在宅医療・介護における看護師の役割が説明できる。 6) 対象とその家族を尊重し、信頼が得られる態度で実習に臨むことができる。
評価方法	評価表に基づき評価する

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 成人看護学	58 成人看護学概論	1 単位	15 時間	1 年

科目担当者： 看護師

学習目標	1. 成人期の特徴を理解する。 2. 成人期の発達課題と社会的役割を理解する。 3. 成人期の健康に影響する因子を理解する。 4. 成人期の健康生活を促すための看護を理解する。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1～3 回	1. 成人期にある人の理解 1) 成人の成長発達の特徴 2) 成人期の発達課題と社会的役割 (1)生活状況の変遷 (2)家族形態と機能 2. 成人各期にある人々の特徴 1) 青年期 2) 壮年期 3) 向老期 3. 成人期の健康問題 1) 成人保健 (1)成人保健の動向と対策 2) 成人各期の健康問題 (1)生活習慣病に関する健康問題 (2)職業に関する健康問題	講義 270 分	人間発達学との関連性を考慮する グループワーク 公衆衛生学との関連性を考慮する
4～7 回	4. 成人看護の基本的なアプローチと有用な基礎理論 1) 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係 2) 看護実践における理論的判断 3) 個人・家族・集団へのアプローチ (1)健康行動の促進への支援 4) 中範囲理論 5. 健康生活を促すための看護 1) エンパワメント・エデュケーション 2) セルフマネジメント 3) 意思決定を支える援助 4) モニタリング・疼痛コントロール 5) ボディイメージの変化に対する援助	講義 180 分 演習 180 分	グループワーク
8 回	講義まとめ・テスト	講義 45 分 試験 45 分	
評価方法	筆記試験 グループワーク 学習態度		
教科書	系統看護学講座専門分野 成人看護学【1】成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向		
備考			

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 成人看護学	59 成人看護学方法論 I	1 単位	30 時間	2 年

科目担当者：看護師

学習目標	1. 受傷により健康上の問題・障害を生じた急性期看護を理解する。 2. 急性期から周手術期を迎える患者・家族の看護を理解する。 3. 周手術期にある成人およびその家族を理解し、基本的看護を理解する。 4. 周手術期にある成人の生命・生理的機能を理解し、生命維持と回復に向けた看護技術を習得する。			
回数	教育内容	時 間	方法と留意点	
1 回	1. 急性期（周手術期）・回復期患者の特徴 1) 生命の危機的状況になる過程の違い 2) 障害の受容過程と自立への援助	講義 90 分	援助計画の立案・演習	
2～3 回	2. 周手術期にある患者の看護 1) 手術前の看護 (1)手術決定から入院までの看護 (2)入院から手術当日までの看護 術前スクリーニング 術前訓練（深呼吸・排痰法）	講義 90 分		
4 回	2) 手術中の看護 (1)手術室での看護師の役割	演習 90 分 講義 90 分		
5～8 回	3) 手術後の看護 (1)術後の観察とアセスメント (2)術後合併症を予防する看護 (3)術後の回復促進する看護 術後ベッドの作成 離床方法 手術後の創管理（ドレーン類の挿入部の処置） （腹帯・胸帯）	講義 270 分 演習 90 分	援助計画の立案・演習 援助計画の立案・演習	
9～11 回	3. 急性期・回復期疾患患者の看護① 1) クモ膜下出血患者の看護 (1)脳神経に障害を持つ患者の特徴と看護の役割 (2)脳血管神経疾患の観察 頭蓋内圧亢進 意識障害 運動麻痺 言語障害 (3)主な治療・処置・検査 (4)クモ膜下出血術後のアセスメントと看護 血管攣縮・高次機能障害	講義 180 分 講義・演習 90 分	演習：高次機能障害 の看護	

12～14 回	2) 脊髄損傷患者の看護 (1)脊髄に障害を持つ患者の特徴と看護 (2)脊髄疾患の観察 脊髄ショック 運動麻痺 感覚障害 随伴症状と合併症 (3)主な治療・処置・検査 (4)脊髄に障害を持つ患者のアセスメントと看護 筋力増強訓練	講義 180 分 講義・演習 90 分	演習：筋力増強訓練
15 回	講義まとめ・テスト	講義 45 分 試験 45 分	
評価方法	筆記試験 課題（学習ノート・援助計画） 学習態度		
教科書	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【4】臨床看護学総論 医学書院 看護学テキスト NICE 成人看護学 急性期Ⅰ 概論・周手術期看護 南江堂 看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント 学研 看護が見える vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 系統看護学講座 専門分野 成人看護学【7】脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学【10】運動器 医学書院		
備考			

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 成人看護学	60 成人看護学方法論Ⅱ	1 単位	30 時間	2 年

科目担当者：看護師

学習目標	1. 麻酔や手術侵襲による術後への影響を考慮し、術前の看護を理解する。 2. 生命の危機的状況から、身体の治癒過程が回復に向かう患者の看護およびリハビリテーションを理解する。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1～4 回	1. 急性期・回復期疾患患者の看護② 1) 心筋梗塞患者の看護 (1)循環器機能に障害を持つ患者の特徴と看護の役割 (2)循環器疾患の観察 胸痛・動悸・不整脈・呼吸困難・浮腫・ショック (3)主な治療・処置・検査 心電図・12誘導心電図・心臓カテーテル検査 (4)治療の違いによるアセスメントと看護 PCI（ステント含む）・冠動脈バイパス術 三大合併症予防(不整脈・心不全・心原性ショック) 心臓リハビリテーション	講義 270 分 演習 90 分	不整脈の種類 ペースメーカーの看護を含む 演習：12誘導心電図
5～8 回	2) 肺がん患者の看護 (1)呼吸器機能に障害を持つ患者の特徴と看護の役割 (2)呼吸器疾患患者の観察 咳嗽・喀痰・胸痛・呼吸困難・チアノーゼ (3)主な治療・処置・検査 胸部レントゲン・呼吸機能検査・血液ガス分析 内視鏡・胸腔穿刺・吸入療法 (4)術式の違いによる手術後のアセスメントと看護 開胸術・胸腔鏡下術、胸腔ドレーン	講義 360 分	
9～12 回	3) 直腸がん患者の看護 (1)消化器機能に障害を持つ患者の特徴と看護の役割 (2)消化器疾患の観察 嘔気・嘔吐・胸やけ・おくび・吐血・下血・便秘 下痢・腹痛・腹部膨満・食欲不振・体重減少 (3)主な治療・処置・検査 腹部レントゲン・造影検査・内視鏡・腹腔穿刺 (4)術式の違いによる手術後のアセスメントと看護 開腹手術・腹腔鏡下手術、腹腔ドレーン 人工肛門造設 ・ストーマサイトマーキング ・ストーマ周囲の皮膚障害とスキンケア ・ストーマのセルフケア指導	講義 270 分 講義・演習 90 分	
13～14 回	4) 乳がん患者の看護	講義 180 分	

15 回	(1)生殖器・性機能に障害のある患者の特徴と看護の役割 (2)女性生殖器疾患の観察 疼痛・発熱 (3)主な治療・処置・検査 ホルモン療法 (4)乳房切除後のアセスメントと看護 リハビリテーション (肩関節可動域運動・リンパ浮腫予防) (5)ボディイメージ変化の受容に対する援助 講義まとめ・テスト	講義 45 分 試験 45 分	
評価方法	筆記試験 学習態度		
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 【2】呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 【3】循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 【5】消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 【9】女性生殖器 医学書院 看護過程に沿った 対症看護 病態生理と看護のポイント 学研		
備考			

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 成人看護学	61 成人看護学方法論Ⅲ	1 単位	30 時間	2 年

担当者：看護師

学習目標	1. 慢性期にある成人および家族への看護を理解する。 2. 生涯にわたり疾病と生活の自己管理が必要な成人および家族の疾病の受容過程と、セルフケア確立への看護を理解する。			
回数	教育内容	時 間	方法と留意点	
1 回	1. 慢性期患者の特徴 1) 疾病と生活の自己管理のための患者・家族	講義 90 分		
2～5 回	2. 慢性期疾患患者の看護 1) 慢性腎不全患者の看護 (1)腎・泌尿器の障害を持つ患者の特徴と看護の役割 (2)腎・泌尿器疾患の観察 浮腫・排尿障害・循環器系異常 疼痛・血尿・膿尿 (3)主な治療・処置・検査 採尿法・腎機能検査・画像検査 透析療法・腹膜透析 (4)透析治療を受ける患者のアセスメントと看護 合併症に関する知識 日常生活管理 (シャント管理・食事・社会的資源の活用)	講義 360 分		
6～9 回	2) 糖尿病患者の看護 (1)代謝障害を持つ患者の特徴と看護の役割 (2)代謝疾患の観察 高血糖症状・低血糖症状・合併症の症状 糖尿病性昏睡 (3)主な治療・処置・検査 血液異常・尿の異常・75gOGTT 自己血糖測定・インスリン自己注射の導入 (4)糖尿病患者のアセスメントと看護	講義 270 分 演習 90 分		
10～12 回	3) 甲状腺機能障害患者の看護	講義 270 分	自己血糖測定 (SMBG)	

13～14 回	(1)内分泌機能に障害を持つ患者の特徴と看護の役割 (2)内分泌疾患の観察 体重変化・身長 of 異常・容貌の変化 神経・筋症状・循環器・消化器症状・無月経 (3)主な治療・処置・検査 ホルモン血中濃度測定・ホルモン負荷試験 画像検査 (4)ホルモン治療を受ける患者のアセスメントと看護	講義 180 分	
15 回	4) 関節リウマチ患者の看護 (1)自己免疫機能に障害を持つ患者の特徴と看護の役割 (2)自己免疫疾患の観察 関節痛・関節炎 (3)主な治療・処置・検査 (4)関節リウマチ患者のアセスメントと看護 身体可動性障害とセルフケアへの援助 薬物療法を受ける患者の自己管理	講義 45 分 試験 45 分	
評価方法	筆記試験 学習態度		
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 【5】 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 【6】 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 【8】 腎・泌尿器科 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 【11】 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 看護過程に沿った 対症看護 病態生理と看護のポイント 学研		
備考			

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 成人看護学	62 成人看護学方法論Ⅳ	1 単位	30 時間	2 年

担当者： 看護師

学習目標	1. 終末期にある成人および家族の身体的・精神的・社会的・霊的苦痛を理解する。 2. 終末期にある成人および家族への看護を理解する。			
回数	教育内容	時 間	方法と留意点	
1～2 回	1. 終末期患者の特徴 1) 死の受容過程と QOL を高める援助 2) スピリチュアルペインへの援助	講義 180 分	グループワーク	
3～6 回	2. 終末期患者の看護① 1) がん患者の看護 (1)薬物療法 ペインコントロール 薬剤による作用と副作用の看護 (2)化学療法 抗がん剤による作用と副作用の看護 (3)放射線療法 放射線療法による作用と副作用の看護 スキントラブルに対する援助 (4)終末期を迎える患者と家族の看護	講義 360 分	グループワーク	
7～11 回	3. 終末期患者の看護② 1) 肝硬変患者の看護 (1)肝臓・胆嚢機能に障害を持つ患者の特徴と看護の役割 (2)肝臓疾患の観察 黄疸・肝性脳症・クモ状血管腫・腹水・倦怠感 搔痒感 (3)主な治療・処置・検査 食事療法・腹水治療・食道・胃静脈瘤対策 肝性脳症対策 (4)代償期・非代償期のアセスメントと看護	講義 450 分		
12～14 回	2) 悪性リンパ腫の患者の看護	講義 270 分		

15 回	(1)血液・造血器に障害を持つ患者の特徴と看護の役割 (2)血液・造血器疾患患者の観察 貧血・出血傾向・白血球減少 (3)主な治療・処置・検査 骨髄穿刺・骨髄生検 造血幹細胞移植 (4)白血球減少している患者のアセスメントと看護 テスト	講義 45 分 試験 45 分	
評価方法	筆記試験 学習態度		
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【4】血液・造血器 医学書院 看護過程に沿った 対症看護 病態生理と看護のポイント 学研		
備考			

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 成人看護学	63 成人看護過程・ クリティカルケア	1 単位	30 時間	2 年

担当者： 看護師

学習目標	1. 周手術期にある事例を通して看護過程が展開できる。 2. クリティカルな状況下にある患者や家族に必要な看護を理解できる。 3. 患者や家族の身体・心理・社会的危機の状況についてアセスメントすることができる。 4. 患者の生命を守るために行われている治療・検査を理解し、必要な看護を習得する。 5. クリティカルな状況下での看護における看護師の役割と専門性について理解できる。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1～7 回	1. 看護過程 1) 胃切除術を受ける患者の看護 (1)情報収集 (2)手術前のアセスメント 術前スクリーニング 手術後起こりうる状況の予測 (3)手術中・手術直後の状態のアセスメント (4)全体像 (5)統合 (6)看護計画の立案・実施 腹腔ドレーン挿入中の患者の援助 (7)評価	講義 90 分 演習 540 分	(臨床工学士)
8 回目	2. ME機器の原理	講義・演習 90 分	
9～14 回	3. クリティカルケア 1) 事例 1：緊張性気胸の患者 胸腔ドレーンの管理 体位ドレナージ 2) 事例 2：重症肺炎の患者 合併症・・・心不全併発 人工呼吸器の管理 気管切開・挿管の吸引 中心静脈圧の測定 輸液ポンプ・シリンジポンプ	講義 90 分 演習 180 分 講義 90 分 演習 180 分	
15 回	テスト	講義 45 分 試験 45 分	
評価方法	看護過程 課題（学習ノート・援助計画） 学習態度		
教科書	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院		
備考			

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 成人看護学	64 成人看護学実習 I	2 単位	80 時間	2 年次後期から 3 年次前期

科目担当者：専任教員

実習目的	急激な身体侵襲により、生命の危機や身体の苦痛が大きい状態に陥った対象及びその家族の特徴を理解し、生命の安全を守り、回復促進及び自立と円滑な社会復帰に向けた援助に必要な基礎的能力を養う。
	実習目標及び内容
	1) 手術を受ける対象とその家族の特徴を踏まえ、手術前の援助の必要性が理解できる。 (1) 手術を受ける対象の状態がアセスメントできる。 (2) 手術を受ける対象、家族の思いを理解し、対応できる。 (3) 手術前の全身状態を整えるための援助ができる。 2) 手術や麻酔が生体に及ぼす影響とその看護が理解できる。 (1)手術室看護師の役割を理解できる。 (2)麻酔・手術・手術体位による合併症のアセスメントができる。 3) 術後の回復促進に向けた観察と援助ができる。 (1) 手術侵襲から回復過程を助けるための援助ができる。 (2) 根拠を明らかにし、術後の観察ができる。 (3) 異常を早期発見するための観察ができる。 (4) 術後の回復促進に向けた援助ができる。 (5) 疼痛が全身状態に及ぼす影響を理解し、安楽を図ることができる。 4) 社会復帰を考慮したセルフケアへの援助ができる (1) 対象とその家族の回復過程に対する受け止め方や認識が理解できる。 (2) 安全の確保ができる。 (3) 回復状態に合わせた日常生活援助ができる。 (4) 退院後の生活上の問題をアセスメントすることができる。 (5) 回復期にある対象の、機能回復と社会復帰に関わる他職種との連携と活用方法がわかる。 (6) 医療者間のチームワークの重要性を認識し、看護師の調整的役割が理解できる。 5) 実習中に学生としての基本的態度がとれる。 (1)記録、課題を期限までに提出できる。 (2)他者の発表、意見を聴き、意見交換ができる。 (3)看護に関心を持ち、学習を深める行動をとることができる。 (4)心身の健康管理ができる。
評価方法	評価表に基づき評価する

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 成人看護学	65 成人看護学実習Ⅱ	2 単位	80 時間	2 年次後期から 3 年次前期

科目担当者：専任教員

実習目的	〈慢性期〉慢性疾患とともに生きる対象とその家族の特徴を理解し、セルフケア能力と QOL の向上に向けた援助に必要な基礎的能力を養う。 〈終末期〉終末期にある対象とその家族を理解し、人の生命に対する思いを深め、対象の苦痛の緩和と QOL 向上に向けた援助に必要な基礎的能力を養う。
	実習目標及び内容
	〈慢性期〉 1) 疾病のコントロールをしながら生活していく対象とその家族を理解できる。 (1) 慢性期にある対象の状態をアセスメントできる。 (2) 慢性期にある対象の身体的・心理的、社会的状況が理解できる。 (3) 対象とその家族の疾病や治療に対する受け止め方や認識が理解できる。 2) 対象におこなわれている各治療が、円滑に受けられるよう援助できる。 (1) 症状をコントロールし、疾患の進行や悪化を防ぐための治療の必要性和内容が理解できる。 (2) 疾患のコントロール状況と予後、検査・治療の方向性が理解できる。 3) 対象の自己管理能力を把握し、疾病や生活のコントロールに向けて援助ができる。 (1) 対象の日常生活に関する今までの生活習慣が理解できる。 (2) 自己管理を支えるための援助ができる。 (3) 自己モニタリングできるための援助や指導方法を考えることができる。 (4) 療養生活に必要な技術を習得できるよう対象とその家族の理解度に合わせた指導をすることができる。 4) 回復への期待と増悪への不安を持つ対象、および家族の精神的支援ができる。 (1) 対象とその家族を尊重した共感的態度でコミュニケーションを図ることができる。 (2) 疾患における生活の制限による苦痛や長期化することへの不安な気持ちを傾聴し理解することができる。 (3) 疾患コントロールのための教育的態度の継続とその支持及び賞賛的にかかわりができる。 5) 疾病のコントロールをしながら生活していく対象に必要な社会資源を考え、活用することができる。 (1) 疾病コントロールが必要な対象の、機能維持と社会復帰に関わる他職種との連携と活用方法がわかる。 6) 実習中に学生としての基本的態度がとれる。 (1) 記録、課題を期限までに提出できる。 (2) 他者の発表、意見を聴き、意見交換ができる。

	(3)看護に関心を持ち、学習を深める行動をとることができる。 (4)心身の健康管理ができる。 〈終末期〉 1) 終末期にある対象とその家族を理解できる。 (1) 終末期にある対象の状態をアセスメントできる。 (2) 終末期にある対象の身体的・心理的、社会的状況が理解できる。 (3) 対象とその家族の疾病や治療に対する受け止め方や認識が理解できる。 (4) 対象のスピリチュアルペインについて理解できる。 2) 終末期にある対象が安楽に過ごせる緩和ケアが実施でき、QOL についての考察を深めることができる。 (1)疾患や苦痛が対象の日常生活に及ぼしている影響が理解できる。 (2)日常生活が安楽に過ごせるような援助ができる。 (3)疼痛の緩和ができる。 (4)合併症の予防ができる。 (5)対象を尊重し、共感的態度でケアができる。 3) 終末期にある対象の家族への精神的支援ができる。 (1)家族が直面する危機について理解でき、精神的苦痛をとらえることができる。 (2)家族が不安や苦痛を表出できるように支援できる。 (3)家族が対象との充実した時間を持てるよう環境調整ができる。 (4)家族の死別の受容プロセスについて考察できる。 4) 苦痛の緩和と QOL 向上のための他職種とチームの連携を理解し、看護の役割を考えられる。 (1)終末期看護におけるチームアプローチの必要性がわかる。 5) 死亡時、危篤時の看護が理解できる。 (1)危篤時の身体的状況を把握する。 (2)身体 of 安楽を図る。 (3)家族への配慮ができる。 (4)死亡時の看護援助が理解できる。 (5)死後の看護援助が理解できる。 6)実習中に学生としての基本的態度がとれる。 (1)記録、課題を期限までに提出できる。 (2)他者の発表、意見を聴き、意見交換ができる。 (3)看護に関心を持ち、学習を深める行動をとることができる。 (4)心身の健康管理ができる。
評価方法	評価表に基づき評価する

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 老年看護学	66 老年看護学概論	1 単位	30 時間	1 年

科目担当者：看護師

学習目標	1. 老年期の発達段階およびその特徴を理解できる 2. 老化・加齢に伴う身体的・精神的社会的変化を知り、ライフステージとその健康課題を理解する。 3. 社会構造の変化・高齢化に伴う高齢者の保健医療福祉の場における課題を理解する。 4. 高齢者の家族が抱える問題について理解する。 5. 老年看護の意義と役割について理解する。			
回数	教育内容	時 間	方法と留意点	
1 回	1. 高齢者の理解	講義 90 分	老人模擬体験 「おいたろう」 グループワーク 発表	
2～4 回	1) 高齢者のイメージ 2) 身体的老化の特徴 (1)呼吸器系 (2)心臓・血管系 (3)神経系 (4)骨・筋肉系 (5)消化器系 (6)泌尿器系 (7)内分泌系 (8)感覚器系 3) 精神的老化の特徴 4) 社会的老化の特徴 (1)役割・経済機能の変化 (2)生活パターンの変化 (3)生きがい ・老人体験	講義 90 分 講義 90 分 講義 90 分		
5～6 回		演習 180 分		
7 回	5) ライフステージにおける老年期 (1)エリクソンの発達段階 (2)社会背景の変化 6) 高齢者の QOL	講義 90 分		
8 回	2. 高齢化現象と諸問題 1) 高齢化社会とは 2) 高齢化の要因 3) わが国の高齢化現象の特徴 (1)高齢化の進行速度 (2)老年人口構成 (3)平均寿命 4) 世界の高齢化の現状	講義 90 分		
9 回	3. 家族形態と社会問題 (1)家族構成の変化 (2)家族形態の変化 (3)高齢者と家族の人間関係 (4)介護と家族 (5)高齢者の性	講義 90 分		
10～11 回	4. 高齢者社会保障 1) 老人医療対策 2) 老人福祉対策 (1)老人福祉法 (2)高齢者医療確保法 (3)介護保険法 (4)ゴールドプラン 21 3) 保健・福祉活動 (1)在宅・施設ケア活動 (2)予防給付・予防サービス	演習 180 分		

12 回	(3) 地域密着型サービス (4) デイサービス (5) グループホーム 5. 老年看護の活動の場 1) 多様な生活の場における看護 (1)保健医療福祉施設および居住施設における看護	講義 90 分	グループワーク 日本看護協会：倫理 綱領
13 回	6. 老年看護の原則 1) 高齢者の尊厳と権利擁護 2) ノーマライゼーション 3) 自立支援 7. 老年看護の特徴 1)安全・安楽な生活への看護 2)健康の保持増進と廃用症候群の予防 3)疾病の治癒・回復の特徴に応じた援助 4)日常生活能力の維持・改善 5)人生の終焉への看護 6)家族との協働 7)安全管理 8)チームアプローチ 9)地域包括ケアシステム	GW・講義 90 分	
14 回	8. 老年看護における倫理的課題 1) 高齢者差別 2) 身体拘束・高齢者虐待 (1)家庭内虐待の要因 (2)わが国の特徴 (3)高齢者虐待の相談機関 3) 地域福祉権利擁護事業と成年後見制度	講義 90 分	
15 回	まとめ・テスト	講義 45 分 試験 45 分	
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会		
備考			

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 老年看護学	67 老年看護学方法論Ⅰ	2 単位	45 時間	2 年

科目担当者：看護師

学習目標	1. 高齢者の日常生活援助方法について理解できる。 2. 高齢者に特徴的な症状・看護について理解できる。 3. 高齢者に起こりやすい事故を認識し急変時の対応を理解できる。 4. 認知症高齢者の看護における援助の方法について理解できる。 5. 高齢者の終末期看護における援助の方法について理解できる。 6. 高齢者の看護に必要な基礎的技術を習得できる。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1 回	1. 高齢者に特徴的な症状とその看護 1) 摂食・嚥下障害 2) 低栄養	講義 90 分 	

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 老年看護学	68 老年看護学方法論Ⅱ	1 単位	30 時間	2 年

科目担当者： 看護師

学習目標	1. 高齢者の健康障害の特徴と援助方法を理解する。 2. 治療を受ける高齢者の看護を理解する。 3. 医療的援助を受ける高齢者への安全対策について理解する 4. ADL 障害のある高齢者の特徴を理解する。 5. 在宅看護の問題および介護者への関わりを理解する。 6. 高齢者の特徴を踏まえて事例を通して看護過程が展開できる。 7. 高齢者に起こりやすい機能障害を理解し、老化と機能障害の程度に応じた、老年看護の基本的な考え方と援助の方法を理解する。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1～6回	1. 健康障害のある高齢者の特徴 2. 入院を必要とする高齢者の看護 1) 高齢者の入院 2) 生活適応を支援する看護 3. 治療を受ける高齢者への看護 1) 薬物療法 ①コンプライアンス、アドヒアランス、 コンコーディネーション ②加齢と薬物療法 ③薬物副作用の徴候の観察と評価 ④薬物療法時の看護 2) 手術療法 ①高齢者の手術 ②術前オリエンテーション ③周手術期看護 ④手術を受ける高齢者の精神的ケア ⑤緊急手術をうける高齢者とその家族への看護 3) リハビリテーション ①高齢者にとってのリハビリテーションの意義 ②「寝たきり」と「寝かせきる」 ③老化と ADL 障害 ④生活リハビリテーション ⑤ADL 障害のある高齢者と家族支援 4) 検査 ①検査が高齢者に及ぼす影響 ②検査時の看護 4. 退院時の看護と継続看護 1) 意思決定への支援 2) 退院調整、保健指導 5. 高齢者に特徴的な機能障害と看護 1) 脳梗塞患者の看護 (1)失語症の言語療法・看護 2) 前立腺肥大・癌患者の看護 3) 心不全患者の看護 4) 慢性閉塞性肺疾患患者の看護	講義 90 分	

7～14 回	5) パーキンソン病 6. 大腿骨頸部骨折患者の看護過程の展開(事例) 1) アセスメント（情報の分類、分析、解釈） 2) 看護診断（問題の把握、問題の明確化） 3) 看護計画立案	講義 講義・演習 720 分	個人ワーク
15 回	講義のまとめ・テスト	講義 45 分 試験 45 分	
評価方法	筆記試験(40 点) 大腿骨頸部骨折患者の看護過程(事例)演習(60 点)		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院		
備考	参考図書： 生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 第 4 版 医学書院 看護過程に沿った対症看護 学研		

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 老年看護学	69 老年看護学実習 I	1 単位	40 時間	2 年次

科目担当者：専任教員

実習目的	施設で生活する高齢者の特徴を理解し、多職種との連携をふまえた看護の役割を学ぶ
	実習目標及び内容
	1)介護老人保健施設・介護老人福祉施設の概要を理解する (1)施設にはどのような職種の職員がいるか (2)介護老人保健施設・介護老人福祉施設の役割と機能について 2)介護老人保健施設・介護老人福祉施設で生活する高齢者の特徴を理解する (1)入居者ならびに利用者の特徴 (2)入居者の1日の生活の状況 (3)加齢に伴う認知・感覚機能を考慮し、入居者と交流の機会をもつ 3)介護老人保健施設・介護老人福祉施設における他職種との連携と看護師の役割を理解する (1)施設における入居者・利用者への健康管理の方法と緊急時の対応 (2)生活の援助の実際 (3)入居者や利用者を取り巻く職種の役割とその連携 4)介護老人保健施設・介護老人福祉施設における高齢者への社会資源の実際を概観する (1)介護老人保健施設・介護老人福祉施設における在宅サービスの概要 (2)介護老人保健施設・介護老人福祉施設における在宅サービスの実際 (3)入居者を取り巻く社会資源の状況を概観する
評価方法	評価表に基づき評価する

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 老年看護学	70 老年看護学実習Ⅱ	2 単位	80 時間	3 年次

科目担当者：専任教員

実習目的	老年期にある対象の特性を理解し、健康レベルに応じた高齢者への看護が展開できる基礎的能力を養う。
	実習目標及び内容
	1) 加齢および健康上の問題による受け持ち患者を身体的・精神的・社会的側面をもつ統合的存在として理解することができる。 (1)受け持ち患者の発達段階ならびに発達課題を説明することができる。 (2)加齢による変化と健康障害が受け持ち患者の身体的・精神的・社会的側面にどのように影響しているか表現することができる。 (3)受け持ち患者の入院生活に対する思いを表現することができる。 (4)受け持ち患者の加齢による変化と健康障害から日常生活に及ぼす影響を説明することができる。 2) 加齢および健康上の問題を持つ対象とその家族を理解することができる。 (1)対象の特徴をふまえて、コミュニケーションを図ることができる (2) 対象の特徴に合った適切な方法で、情報を収集し、領域毎に整理することができる (3) 領域の定義を理解し、各領域(類)の解釈・分析ができる (4)受け持ち患者の全体像を統合的存在として関連図に表現することができる (5) 仮の看護診断の統合ができる (6)看護診断の確定ができる 3) 対象の特性を踏まえた看護計画を立案できる。 (1)看護目標や成果目標を導き出すことができる (2)加齢現象による機能低下や、健康障害による症状をふまえ、個別性のある看護計画が立案できる (3)対象の強みを生かした看護計画を立案することができる 4) 問題解決に向けて、高齢者の特性に合わせた援助の実施および、評価ができる。 (1)看護計画に基づいて看護が実践できる。 (2)対象に必要な日常生活援助を安全・安楽な方法で実施できる。 (3)対象の強みを生かし、日常生活自立への支援を工夫することができる。 (4)対象の意思や自律性を尊重した関りができる (5)実施した看護の結果から、評価・修正ができる。 5) 病院における保健医療福祉の連携の実際を知り、看護の役割を理解する。 (1)対象に適した社会資源の活用について考えることができる (2)保健医療福祉チームの連携について考え、看護の役割に対する理解を深めることができる (3)看護職ならびに他職種の役割・機能を理解することができる 6) 実習中に学生としての基本的態度がとれる。 (1)記録・課題を期限内に提出できる (2)他者の発表、意見を聞き、意見交換ができる (3)看護に関心を持ち、学習を深める行動をとることができる (4)心身の健康管理ができる
評価方法	評価表に基づき評価する

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 小児看護学	71 小児看護学概論	1 単位	30 時間	1 年

科目担当： 看護師

学習目標	1. 小児看護の目標と看護の役割について説明できる。 2. 小児期における成長・発達の意味を理解する。 3. 小児期にとっての家族の役割と機能を理解する 4. 小児を取り巻く環境の変化と保健医療福祉の動向を理解する。 5. 子どもの権利の保障をすることの必要性が理解できる。 6. 小児にとっての栄養の意義を理解する。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1 回	1. 小児看護の対象 1) 子どもとは 2) 子どもと家族・社会 2. 小児看護の変遷 1)子ども観の変遷 2)小児医療の変遷 3)小児看護の変遷 3. 小児看護の目標と役割 1)小児看護の目標 2)小児看護の役割 3)小児看護の課題	講義 9 0 分	子どもをイメージし、 子どもが生来もつ特性を 理解できる内容とする。 チャイルドビジョンに て小児体験 人間発達学、母性看護 学を想起する。
2回	4. 小児看護における倫理 1)児童憲章 2)子どもの権利条約 3)入院している子どもの権利 4)アドボカシーとアドボケイト 5)代替え意思決定と子どもの最善の利益	講義 9 0 分	
3回	5. 小児にとっての家族の特徴と家族アセスメント 1)家族とは 2)現代家族の特徴 3)家族アセスメント	講義 9 0 分	親子演習 実際の乳幼児と家族と 接見し、子どもと家族の 成長と環境について理解 できる内容とする
4回	6. 小児を取り巻く社会環境. 1)衛生統計、保健・福祉行政の推移	講義 9 0 分	「赤ちゃん先生」
5回	2)小児をめぐる法律と施策	講義 9 0 分	
6回	7. 小児看護における理論 8. 小児の特性と成長発達 1)成長・発達の評価	講義 9 0 分	カウプ指数・ローレル 指数・肥満度
7回～9回	9. 小児各期の機能と特徴及び援助 1)形態的特徴と機能的発達 2)精神・運動機能の発達	演習 450 分	グループワーク グループ毎で積極的に学 習し、その成果を共有す る。
10～11 回	3)生理的特徴と発達 4)生活の特徴と養育 5)起こりやすい健康問題と援助		離乳食演習

12～13 回	10. 小児の栄養 1) 小児にとっての栄養の意義 2) 食事摂取基準 3) 発達段階別小児の栄養 4) 離乳食	講義 9 0 分 演習 9 0 分	離乳各期の特徴を踏まえ 形態や硬さを確認する。
14回	11. 小児にとっての遊びと教育 1) 遊びの意義 2) 遊びの分類と発達 3) 入院している小児の遊び 4) 教育の意義 5) 入院している小児の教育	講義 9 0 分	
15回	12. 講義のまとめ・テスト	講義 4 5 分 試験 4 5 分	
評価方法	筆記試験、課題(発達カレンダー、新聞記事)		
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学【1】 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 国民衛生の動向		
備考	乳幼児と母親による親子演習「赤ちゃん先生」		

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 小児看護学	72 小児看護学方法論 I	2 単位	45 時間	2 年

科目担当者： 医師・看護師

学習目標	1. 小児の健康障害の特徴と治療について理解する。 2. 健康障害が子どもや家族に与える影響を知り、その援助方法について理解できる。 3. 子どもによくみられる症状とその看護について理解する。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1 回	1. 小児の疾病の成り立ちと治療・回復過程 1) 小児科学総論 (1) 解剖生理学的特徴 (2) 薬の使い方	講義 90 分	
2 回	2) 先天性疾患 (1) 染色体異常 3) 新生児期の疾患 (1) 分娩時損傷 (2) 新生児仮死 (3) 呼吸窮迫症候群 (4) 胎便吸引症候群 (5) 壊死性腸炎 (6) 高ビリルビン血症、核黄疸 (7) 乳幼児突然死症候群	講義 90 分	
3 回	4) 代謝性疾患 (1) 先天代謝異常症 (2) 糖尿病 5) 免疫・アレルギー疾患 (1) 食物アレルギー (2) 気管支喘息 6) 感染症 (1) ウィルス感染症 (2) 細菌感染症	講義 90 分	
4 回	7) 呼吸器疾患 (1) 肺炎、気管支炎 (2) クループ (3) 急性咽頭炎 8) 循環器疾患 (1) 先天性心疾患 (2) 川崎病	講義 90 分	
5 回	9) 消化器疾患 (1) 先天性食道狭窄症 (2) 肥厚性幽門狭窄症 (3) ヒルシュスプルング病 (4) 腸重積症 (5) 胆道閉鎖症 (6) 鎖肛 (7) 感染性胃腸炎	講義 90 分	
6 回	10) 血液疾患 (1) 特発性血小板減少性紫斑病 (2) 白血病 (3) 血友病 11) 腎疾患 (1) 糸球体腎炎 (2) ネフローゼ (3) 尿路奇形	講義 90 分	
7 回	12) 神経疾患 (1) けいれん (2) てんかん (3) 髄膜炎 (4) 脳炎 13) 精神疾患 (1) 発達障害 (2) 自閉スペクトラム症	講義 90 分	
8 回	2. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護	講義 90 分	

9 回	1)病気・障害が子どもと家族に与える影響 2)子どもの健康問題と看護 3.子どもの状況に特徴づけられる看護 1)入院中における子どもと家族の看護 2)外来における子どもと家族の看護 3)在宅療養中の子どもと家族の看護	講義 90 分	
10 回	4) 災害時の子どもと家族の看護 (1)災害時の子どもの心身に大ボス影響 (2) 災害時の子どもと家族への看護 (3) 災害時に看護するものへの支援	講義 90 分	
11 回	4.症状を示す子どもの看護 1)痛み 2)呼吸困難 3)アレルギー性疾患をもつ子どもと家族の看護 4)発熱 5)脱水 6)嘔吐 7)下痢 8)痙攣 9)意識障害 10)浮腫 11)腎疾患を持つ子どもと家族の看護(ネフローゼ)	講義 90 分	
12～13 回	5.循環器疾患を持つ子どもと家族の看護	講義 180 分	
14～15 回	1) 急性期にある子どもと家族の看護 6.血液・造血器疾患をもつ子どもと家族の看護	講義 180 分	
16 回	7.消化器疾患をもつ子どもと家族の看護 8.代謝機能疾患をもつ子どもと家族の看護	講義 90 分	
17 回	1) 慢性期にある子どもと家族の看護	講義 90 分	
18 回	9.手術を受ける子どもと家族の看護	講義 90 分	
19 回	1) 周手術期の特徴 10. 終末期にある子どもと家族の看護	講義 90 分	
20 回	1)子どもの死の概念 2)不安のケア	講義 90 分	
21～22 回	3)死をみとる家族への支援 4)子どもを亡くした家族への看護	講義 180 分	
23 回	講義のまとめ・テスト	試験 45 分	
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学【1】 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学【2】 小児臨床看護各論 医学書院		
備考			

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 小児看護学	73 小児看護学方法論Ⅱ	1 単位	30 時間	2 年

科目担当者：看護師

学習目標	1. さまざまな状況にある子どもと家族への看護が理解できる。 2. 小児期の対象を事例とした看護過程の展開について理解する。 3. 小児看護技術の特徴と看護について理解できる。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1回	1. 障害のある子どもと家族の看護 1)障害のとらえ方 2)障害のある子どもと家族の特徴 3)障害のある子どもと家族への社会的支援	講義90分	
2～3回	2. 子どもの虐待と看護 1)児童虐待の現状 2)児童虐待に対する看護師の役割 3)虐待を受けた小児と家族の支援 4)児童虐待における通告と関係機関連携	講義 180 分	
4～10回	3. 看護過程を用いた事例展開 1)小児における情報収集の視点 2)事例展開	講義・演習 630 分	
11～14回	4. 小児看護に必要な看護技術 1)バイタルサイン測定 2)身体計測 3)検体採取 4)与薬(経口、座薬、点滴管理) 5)吸引 6)ベッドの取り扱い 7)吸引 8)座薬の投与 9)腰椎穿刺抑制	講義 180 分 演習 180 分	
15 回	講義のまとめ・テスト	講義45分 試験45分	
評価方法	課題、筆記試験、		
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学【1】 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学【2】 小児臨床看護各論 医学書院 写真でわかる小児看護技術 インターメディカ		
備 考			

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 小児看護学	74 小児看護学実習	2 単位	80 時間	2 年次後期から 3 年次前期

科目担当者：専任教員

実習目的	小児期にある小児とその家族の特徴を理解し、成長・発達段階、健康レベルに応じた看護を展開できる基礎的能力を養う。
	実習目標及び内容
	【保育園】 1) 小児の成長発達の特徴を捉え、発達段階に応じた日常生活の支援の必要性を理解できる。 (1) 乳幼児の成長発達段階を理解し、特徴を捉え説明できる。 (2) 乳幼児の発達段階に応じた日常生活援助動作（食事・排泄・睡眠。清潔・衣服の着脱）の獲得状況を把握し、成長を促す援助の実践ができる。 (3) 乳幼児の発達段階に応じた遊びの変化を理解し、遊びを取り入れたコミュニケーションを図ることができる。 2) 小児の安全を守るために集団生活の中での健康管理、感染予防、事故予防が理解できる。 (1) 集団生活の中で安全に配慮した援助ができる。 (2) 集団生活の中で感染予防に配慮した援助ができる。 3) 小児との関りを通して、子どもの特徴が理解できる。 (1) 発達段階に応じた遊びやコミュニケーションを通して、子どもの特徴を捉えることができる。 (2) 乳幼児との関りを通して、養育の必要性を理解し、自己の「子ども観」を述べるができる。 【病棟】 1) 健康障害のある小児とその家族を統合的に捉え、小児に必要な援助を実施し評価できる。 (1) 対象の健康状態とその特徴が述べられる。 (2) 健康障害や入院によって対象とその家族が受ける影響について述べるができる。 (3) 対象の健康障害が、成長発達、特性に関連した治療への影響をアセスメントできる。 (4) 対象の健康障害が日常生活動作に及ぼす影響についてアセスメントできる。 (5) 対象の看護問題に関連した看護計画を立案できる。 (6) 健康障害を持つ対象の家族に配慮した関りを考えることができる。 (7) 対象に合った援助の評価・修正ができる。 (8) 日々変化する状況を捉えた目標の設定ができる。 2) 小児の成長発達に応じた日常生活（遊び・学習を含む）の援助が実施できる。 (1) 対象の病態を捉えたコミュニケーションを図ることができる。 (2) 対象の特徴に応じた遊びや学習を取り入れた、日常生活援助が実践できる。

	3) 小児の安全・安楽な入院生活環境の実際を知り、安全に配慮した援助が実施できる。 (1) 対象の安全、感染予防を考慮した環境整備の必要性を理解し、指導のもと実践できる。 (2) 適宜、報告・連絡・相談ができる。 4) 小児を取り巻く保健医療チームの連携を理解し、小児看護の役割が述べられる。 (1) 対象に関わる多職種との連携の必要性を説明することができる。 (2) チームメンバーの一員として小児看護の役割を述べることができる。 【共通】 1) 実習中、学生としての基本的態度が取れる。 (1) 記録、課題を期限までに提出できる。 (2) 他者の発表・意見を聴き、意見交換できる。 (3) 看護に関心を持ち学習を深める行動をとることができる。 (4) 心身の健康管理ができる。
評価方法	評価表に基づき評価する

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野Ⅱ 母性看護学	75 母性看護学概論	1 単位	30 時間	1 年後期

科目担当者：専任教員

学習目標	1. 母性看護の基盤となる概念を理解する。 2. 人間の性と生殖について理解する 3. 母性看護の対象を取り巻く社会の現状と課題を理解する。 4. 母性看護の目的と役割、課題を理解する。 5. ライフサイクル各期の女性の健康と看護を理解する。 6. 自己の母性観・生命観・倫理観を養うことができる。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1 回	1. 母性とは 1) 母性の心理的特性 2) 母性意識の形成、発達、発展 3) 愛着・母子相互作用と母子関係形成 4) 家族 (1) 家族の発達と機能 (2) 家族の発達課題	講義 90 分	母子相互作用 母親役割獲得理論 親役割・家族については人間発達学・家族看護学・小児看護学との関連での内容とする
2 回	2. セクシュアリティ 1) 性と生殖の概念と意義 2) セクシュアリティの概念 3) セクシュアリティの発達と課題 (1) 性分化のメカニズム(LGBTQ と性分化疾患) (2) セクシュアリティの発達と課題 (3) 身体上の性と社会的性	講義 90 分	
3 回	3. リプロダクティブヘルス/ライツの概念と課題 1) リプロダクティブヘルス/ライツの概念 2) リプロダクティブヘルスケア	講義 90 分	
4 回	4. 性周期とホルモン 5. 受胎のメカニズム 6. 性行動	講義 90 分	
5 回	7. 母性看護の変遷 8. 母子保健統計からみた動向 1) 出生に関する動向 2) 死亡に関する動向 3) 人工妊娠中絶の動向	講義 90 分	
6 回	9. 母性看護と法律・政策 1) 地域における子育て支援 (1) 妊産婦と乳幼児に対する支援 (2) 健全な母性の育成 (3) 次世代育成支援 2) 就労と母性	講義 90 分	

7 回	3) 母体保護法 4) 母子保健法 10. 母性看護の目的 1) 母性看護の役割 2) 母性看護の課題と展望	講義 90 分	
8 回	11. 母性看護と倫理 1) 権利と擁護 2) 自己決定の尊重 3) プライバシーの保護	講義 90 分	
9 回	12. ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性	講義 90 分	
10 回	13. 思春期の看護 1) 思春期の特徴 2) 思春期におこりやすい月経異常と月経教育 3) 思春期におこりやすい健康障害 (1) 思春期のやせ (2) 思春期早発症・遅発症 (3) 思春期の精神障害 4) 思春期の保健と指導 (1) 健全母性育成事業 (2) 栄養 (3) 性教育 (4) 思春期外来	講義 90 分	
11 回	14. 成熟期の看護 1) 成熟期の特徴 2) 成熟期の保健指導 (1) 月経と健康に対する指導 (2) 女性の結婚と指導 (3) 家族計画と母子保健 (4) 女性の妊娠・出産・育児 (5) 女性と労働 3) 成熟期におこりやすい健康障害 (1) 月経障害	講義 90 分	
12 回	15. 更年期の看護 1) 更年期の身体的・心理的・社会的特徴 2) 更年期障害・更年期症状 3) 閉経に対する指導	講義 90 分	
13 回	16. 母性各期に共通する健康問題と看護 1) 不妊症、不妊治療(出生前診断・不妊治療と看護) 2) 妊娠中絶 3) 性暴力	講義 90 分	
14 回	17. 母性看護を取り巻く課題と看護	演習 90 分	グループワーク
15 回	講義まとめ・テスト	講義 45 分 試験 45 分	

評価方法	レポート 発表 出席状況 筆記試験
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会
備考	母性看護に関する社会情勢が変化している時期ですので、新聞等をよく読んで新しい情報を得る努力をしていきましょう。

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 母性看護学	76 母性看護学方法論 I	2 単位	45 時間	2 年

科目担当者：看護師

学習目標	1. 妊娠の成立と妊娠、分娩、産褥の正常な経過を理解する。 2. 新生児の生理を理解する。 3. 妊産褥婦および新生児の心理的・社会的の特徴を理解する。 4. 妊産褥婦および新生児とその家族に対する看護を理解する。 5. 妊産褥婦および新生児の看護に必要な基礎的看護技術を習得する。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1～2 回	1. 妊婦の看護 1) 妊娠の成立 2) 妊娠による母体の変化と胎児の発育 3) 妊婦の心理的・社会的特徴	講義 180 分	➤ 妊婦体験を行い、妊婦の身体的・精神的・社会的特徴の理解を深める ➤ 産婦・褥婦・新生児については、イメージ化を図るため、視聴覚教材をDVD,ファントム等を使用する ➤ リード理論
3 回	4) 健康診査	講義 90 分	
4 回	5) マイナートラブルと保健指導	講義 90 分	
5 回	6) 妊婦の日常生活とセルフケア 7) 出産・育児準備 8) 親役割の準備	講義 90 分	
6 回	2. 妊婦(胎児)の看護に必要な基礎的看護技術 (子宮底長・腹囲の測定、レオポルド触診法、胎児心音聴取 等)	演習 90 分	
7～8 回	3. 産婦の看護 1) 正常な分娩経過 (1) 分娩の 3 要素 (2) 正常な分娩経過・機転	講義 180 分	
9 回	2) 産婦の心理的・社会的特徴 3) 産婦・胎児・家族のアセスメント	講義 90 分	
10 回	4) 正常な産婦の看護 (1) 経過観察と産痛緩和 (2) 出生直後の愛着形成 (3) 出産体験の振り返り	講義 90 分	
11 回	4. 産婦の看護に必要な基礎的看護技術 (分娩経過観察法、呼吸法、産痛緩和 等)	演習 90 分	
12～	5. 褥婦の看護	講義 180 分	
13 回	1) 正常な産褥経過 (1) 退行性変化 (2) 進行性変化と母乳保育 2) 褥婦の心理的・社会的特徴 3) 母親・父親役割獲得過程	講義 180 分	
14～	4) 正常な褥婦の看護		
15 回	(1) 退行性変化を促す援助 (2) 母乳保育確立への援助		
16～	6. 褥婦の看護に必要な基礎的看護技術	演習 180 分	

17 回	(退行性変化の観察と復古促進、清潔ケア、直接授乳時のケア、搾乳 等)		
18～ 19 回	7. 新生児の看護 1) 新生児の定義、アセスメント (1) 母体外生活への適応過程 (2) 新生児の身体的特徴	講義 180 分	
20 回	2) 正常な新生児の看護	講義 90 分	
21～ 22 回	8. 新生児の看護に必要な基礎的看護技術 (全身観察、身体計測、沐浴、抱き方、寝かせ方 オムツ交換、衣類着脱、臍処置、耳鼻清掃 等)	演習 180 分	
23 回	テスト	試験 45 分	
評価方法	レポート 筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院 写真でわかる 母性看護技術アドバンス インターメディカ		
備考			

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 母性看護学	77 母性看護学方法論Ⅱ	1 単位	30 時間	2 年

科目担当者：医師・看護師

学習目標	1. 妊娠・分娩・産褥期に起こりやすい異常とその看護について理解する。 2. 正常な経過を辿る妊産婦および新生児の事例を通し、アセスメントと援助方法を考える。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1 回	1. 妊娠の異常と検査・治療 1) ハイリスク妊娠 2) 妊娠期の感染症 3) 多胎妊娠 4) 子宮外妊娠 など	講義 90 分	医師の講義で深める
2 回	2. 分娩の異常と検査・治療 1) 産道の異常 2) 娩出力の異常 3) 胎児および胎児附属物の異常 4) 分娩損傷 5) 異常出血 6) 産科処置と産科手術 など	講義 90 分	
3 回	3. 産褥の異常と検査・治療 1) 子宮復古不全 2) 産褥期の発熱 3) 精神障害 など	講義 90 分	
4 回	4. 新生児の異常と検査・治療 1) 新生児仮死 2) 分娩外傷 3) 低出生体重児 4) 高ビリルビン血症	講義 90 分	
5 回	5. ハイリスク妊婦・産婦の看護 1) 妊娠高血圧症候群 2) 切迫流早産 3) 帝王切開 4) 破水 5) 分娩遷延 6) 弛緩出血	講義 90 分	視聴覚教材を多用する
6 回	6. 新生児の異常と看護 1) 新生児仮死 2) 低出生体重児 3) 高ビリルビン血症	講義 90 分	
7 回	7. 産褥の異常と看護 1) 乳房トラブル 2) 子宮復古不全 3) 産褥熱 4) 産後うつ	講義 90 分	
8 回	8. 死産、先天異常・障害を持つ新生児の母親とその家族の看護	講義 90 分	事例展開 ウェルネス理論
9 回～ 14 回	9. 正常な褥婦・新生児の事例	講義・演習 450 分	
15 回	まとめ テスト	講義 45 分 試験 45 分	
方法	提出物(事例検討) 筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院 マタニティ診断ガイドブック 医学書院 ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程 第4版 医歯薬出版株式会社		
備考	正常を逸脱した対象への看護を学び、健康の維持増進・異常の予防と早期発見の看護に活かす。事例検討は、個人ワークとグループワークで展開します。		

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 母性看護学	78 母性看護学実習	2 単位	80 時間	2 年次後期から 3 年次前期

科目担当者：専任教員

実習目的	女性のライフステージに応じたヘルスニーズを理解し、周産期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)及び育児期にある対象とその家族への看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。
	実習目標及び内容
	1) 妊娠期の経過が理解できる。 (1)妊娠による母体の変化をアセスメントできる。 (2)NST 装着方法と波形の判定が理解できる。 2) 分娩期の経過が理解できる。 (1)分娩各期の援助が理解できる。 (2)基本的ニーズの充足、不安・苦痛の緩和、分娩進行に向けた援助が理解できる。 (3)出産の喜びを母親や家族と分かち合うことができる。 (4)妊産婦と家族を母親・父親の役割を担う存在として捉えることができる。 (5)母親と家族及び児との関わりを通し、母子関係の重要性に気づくことができる。 3) 新生児の生理的特徴を理解し、胎外生活適応への援助が理解できる。 (1) 新生児の胎外生活への適応過程が理解できる。 (2)安全に配慮した援助が実践できる。 (3)新生児を人格ある存在として、愛着をもって接することができる。 (4)新生児の診察、検査の実際が理解できる。 4) 産褥期にある母子に必要な看護および保健指導の実際を理解できる。 (1) 受け持ち褥婦の観察と情報収集をおこない、アセスメントできる。 (2)褥婦の援助計画が立案できる。 (3)褥婦および新生児に対する援助が一部実践できる。 (4)実施した援助の評価ができる。 (5)褥婦に対する保健指導の実際が理解できる。 5) 母子の健康を維持・増進するための社会的支援が理解できる。 (1) 子育て支援活動の実際を理解できる。 6) 生命の神秘や尊厳について考察し、母性看護の役割を理解できる。 (1)生命への尊厳についての考えを述べることができる。 (2)リプロダクティブヘルス／ライツに基づく看護を考えることができる。 7) 実習中に学生として基本的態度がとれる。 (1)記録、課題を期限までに提出できる。 (2)他者の発表、意見を聞き意見交換ができる。 (3)看護に関心を持ち、学習を深める行動をとれる。 (4)心身の健康管理ができる。
評価方法	評価表に基づき評価する

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 精神看護学	79 精神看護学概論	1 単位	1 5 時間	1 年

科目担当者：看護師

学習目標	1. 精神看護の変遷を知り、精神看護学の概念を理解する。 2. ライフサイクルと精神の発達危機について理解する。 3. 精神看護の対象及び看護の目的を理解する。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1 回	1. 精神科看護から精神看護へ 1) 精神看護学の基本的な考え方 2) 精神障害という考え方	講義	
2 回	2. 精神看護学に影響を及ぼす諸モデル 1) 心のしくみと人格の発達 2) 心身の健康に及ぼすストレス影響 （1） 医学モデル （2）精神分析モデル （2） 対人関係モデル （4）危機予防モデル （5） 看護モデル	講義	
3 回	3. 精神の健康を理解するための諸概念 1) ライフサイクルとアイデンティティ 2) 愛着理論 3) 認知発達理論 4) ライフサイクルと精神看護の課題	講義	
4 回	4. 精神の健康に及ぼす因子 1) 生物学的因子：遺伝、生化学物質 2) 物理的環境因子：ホスピタリズム 3) 心理社会的因子：家族、ソーシャルサポート 4) 社会構造因子：スティグマ、文化	講義	
5 回	5. 生活の場と精神保健 1) 精神保健の考え方 2) 精神保健における予防概念 3) リカバリーを支える力	講義	
6 回	6. 地域における精神保健活動 1) 地域社会を支えるシステムと社会資源 2) 地域におけるケアの方法と実際 3) 災害時における精神ほけん活動	講義	
7 回	7. 精神保健制度 1) 精神医療の歴史 2) 精神障害と法制度	講義	
8 回	終講試験	試験 45 分	
評価方法	ミニテスト（20 点）、筆記試験（80 点）		
教科書	系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学【1】 精神看護の基礎 医学書院 別巻 精神保健福祉		
備考			

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 精神看護学	80 精神看護学方法論 I	2 単位	4 5 時間	2 年

科目担当者：医師・看護師

学習目標	1. 精神の障害とその診断および検査と治療を理解する。 2. 診察・検査治療を受ける対象に必要な看護を理解する。 3. 障害をもちながら生活する対象に必要な支援方法を理解する。			
回数	教育内容	時 間	方法と留意点	
1～5 回	1. 精神疾患の診断と分類 1) 精神症状と状態 (1) 症状とは何か (2) 精神症状 ① 知覚障害 ② 思考障害 ③ 自我意識障害 ④ 感情障害 ⑤ 意欲・行動障害 ⑥ 意識障害 ⑦ 知能障害 ⑧ 記憶障害 ⑨ 強迫障害 (3) 状態像 ① 不安状態 ② 心気状態 ③ 幻覚妄想状態 ④ 抑うつ状態 ⑤ 精神運動興奮状態 ⑥ 昏迷状態 ⑦ 無為・自閉状態 ⑧ 引きこもり状態 2) 診断と疾病分類 (1) 診断と分類 (2) 疾患と障害	講義	➤ 医師の講義で深める	
6～9 回	2. 精神疾患の検査と治療 1) 疾患 (1) 統合失調症患者 (2) 気分障害患者 (3) 身体表現性障害患者 (4) 物質関連障害患者 (5) 境界性パーソナリティ障害 (6) 児童・思春期におこりやすい精神障害 ① 発達障害(精神遅滞、自閉症、ADHD) ② 神経症障害(不登校、家庭内暴力、摂食障害) 2) 検査 (1) 脳波検査 (2) CT・MRI 検査 (3) 心理療法 3) 治療 (1) 薬物療法 (2) 電気けいれん療法 (3) 社会復帰療法 (4) リハビリテーション療法	講義	➤ 医師の講義で深める	
10～11 回	3. 精神症状と状態の理解と看護	講義	➤ 疾患と症状・治療に	

	1) 精神症状の理解 (1) 統合失調症 (2) 妄想性障害 (3) 気分(感情)障害 (4) 不安障害 (4) 強迫障害 (5) 適応障害 (6) 解離性障害		ついて、看護的視点からとらえ、具体的援助につなげる
12～15 回	2) 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 (1) 摂食障害 (2) 睡眠障害 (3) 性同一性障害 (4) パーソナリティ障害 (5) アルコール症 (6) てんかん 3) 認知症の状態にある患者の看護		
16～17 回	4. 診察・検査および治療に伴う看護 1) 診療に伴う看護 2) 検査に伴う看護 3) 薬物療法に伴う看護 4) けいれん療法を受ける患者の看護 5) 精神療法を受ける患者の看護 6) 社会療法を受ける患者の看護	講義	
18 回	5. 安全な治療環境の提供 1) 病棟環境の整備と行動制限 2) 包括的暴力防止プログラム 3) 災害時の安全確保	講義 演習	
19～20 回	6. 精神科リハビリテーション療法を受ける患者の看護 1) 精神科リハビリテーションと地域精神保健 2) 地域におけるリハビリテーションサービス 3) 精神科リハビリテーションと今後の課題	講義	
21～22 回	7. 看護の対象及び看護師の役割 1) 精神科での治療の特徴 2) 倫理と人権擁護 3) リスクマネジメントの考え方 4) リスクマネジメントの実際	講義	
23～24 回	8. リエゾン精神看護 1) リエゾン精神看護の歴史 2) リエゾンナースの活動の実際	講義	
25 回	まとめ/終講試験	試験 45 分	
評価方法	ミニテスト(10 点)、課題レポート(10 点)、筆記試験 (80 点)		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学【1】精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学【2】精神看護の展開 医学書院		
備考	課題図書 : 中村ユキ、わが家の母はビョーキです 1・2、サンマーク出版		

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 精神看護学	81 精神看護学方法論Ⅱ	1 単位	30 時間	2 年

科目担当者： 看護師

学習目標	1. 精神看護の基本技法を学び、対象理解及び援助に必要な働きかけ方を理解する。 2. 精神に障害のある対象の看護過程が展開できる。 3. 看護過程の展開をとおり、具体的な援助が理解する。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1 回	1. 精神に障害をもつ人との関わり方 1) 精神に障害をもつ人の理解と考え方 2) 「患者－看護師」関係の理解	講義	
2 回	2. 精神に障害をもつ人とのコミュニケーション 1) コミュニケーションの種類と特徴 2) 精神に障害をもつ人とのコミュニケーション 3) 接近・接触技法	講義	
3～4 回	3. 精神に障害をもつ人との関係の振り返り 1) 振り返ることの意味 2) プロセスレコード	講義 演習	プロセスレコード
5～6 回	4. 回復を支えるプログラム 1) 社会生活技能訓練（SST） 2) 認知行動療法	講義 演習	事例検討
7 回	5. 患者家族の理解とその援助 1) 患者家族の心理 2) 家族の負担 3) 家族が危機を乗り越えるための援助	講義	
8 回	6. 精神に障害のある対象の理解 1) 統合失調症の症状と看護	講義 講義	
9～13 回	7. 精神に障害のある対象の看護過程の展開(事例の展開) 1) 情報整理と分析 2) 看護問題の明確化 3) 看護計画の立案	講義・演習	
14 回	8. 看護援助技法演習（7. 事例をもとに） 1) 社会生活技能訓練（SST） 2) プロセスレコード	講義 グループワーク 講義・演習	➤協同学習で演習し 理解を深める
15 回	講義のまとめ・テスト	講義 30 分 試験 60 分	
評価方法	演習課題・演習参加状況(54 点)、筆記試験(46 点)		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学【1】精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学【2】精神看護の展開 医学書院		
備考			

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 精神看護学	82 精神看護学実習	2 単位	80 時間	2 年次後期

科目担当者：専任教員

実習目的	精神に障害をもつ対象に看護を理解し、健康回復および社会適応に必要な基礎的な看護実践能力を養う。
	実習目標及び内容
	1) 精神に障害をもつ対象とその家族を理解する。 (1)対象の病態を器質的・機能的に説明できる。 (2)対象の疾患に伴う治療目的・方法を説明できる。 (3)疾患・治療・入院が対象の身体面に及ぼす影響について説明できる。 (4)疾患・治療・入院が対象の精神面に及ぼす影響について説明できる。 (5) 疾患・治療・入院が対象の社会的役割に及ぼす影響について説明できる。 2) 患者－看護師関係を通して、治療的かかわりの基礎的能力を理解する。 (1) 対象の価値観や思いを傾聴する姿勢を示すことができる。 (2) 効果的なコミュニケーション技法を実施できる。 (3) 治療的コミュニケーション技法を用いて一場面を再構成できる。 (4)対象との発展過程段階について説明できる。 3) 精神に障害をもつ対象のセルフケアレベルに応じた援助を実践する。 (1)精神に障害をもつ対象の強みを説明できる。 (2)精神障害の症状が日常生活に及ぼす影響を説明できる。 (3)対象の日常生活活動に合わせた援助を実施できる。 4) 精神に障害をもつ対象の特殊な環境について理解する。 (1)精神科病棟の特殊性について説明できる。 (2)精神科病棟の安全管理体制について説明できる。 (3)チーム医療と協働する専門職の役割、連携の必要性について説明できる。 (4)精神に障害をもつ患者を支える家族の現状を考える。 5) 精神に障害をもつ対象に社会生活を営むための支援について理解する。 (1)制度や地域の現状をふまえ、社会復帰を促進するための施設の役割を説明できる。 【施設実習】 (2)精神に障害をもつ利用者の特徴を踏まえ、地域で生活する利用者の現状を説明できる。【施設実習】 (3)精神に障害をもつ利用者の地域のなかでの生活について説明できる。 【施設実習】 (4) 精神に障害をもつ利用者の活動における社会保障、権利擁護について考える。 (5) 精神に障害をもつ利用者の生活における事故防止策について考える。 6) 看護学生として看護倫理に基づく行動がとれる。 (1)記録課題を期日までに提出できる。 (2)他者の発表・意見を聴き、意見交換できる。 (3)医療チームの一員として適切な人間関係を持てる。 (4)精神に障害をもつ人々の権利擁護の重要性を説明できる。
評価方法	評価表に基づき評価する

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 看護の統合と実践	83 国際・災害看護	1 単位	30 時間	3 年

科目担当者： 非常勤講師・看護師

学習目標	1. 国際的な看護活動の必要性を理解する。 2. 国際社会における看護の役割を主体的に考えることができる。 3. 災害の定義および災害医療の概要を理解する。 4. 災害サイクルにおける保健医療ニーズや活動の場に応じた看護を理解する。 5. わが国における災害対策と災害救助活動を通して国際協力の必要性を理解する。 6. エイズに関する知識と国際的視野に基づき予防と対策について理解する。			
回数	教育内容	時 間	方法と留意点	
1 回	1. 国際看護の概念と必要性 1) 国際看護の概念と目的 2) 国際看護の必要性	講義 90 分	災害医療に関する法律問題も知識として押える DMAT（災害派遣医療チーム）の活動の実際を講義することで国際協力の実際を深める 災害時に必要な技術は演習を行う HIV の罹患率や治療、感染経路を国際的な視野で捉え 諸外国の活動を理解する	
2 回	2. 国際社会の現状と国際協力 1) 異文化理解 2) 支援を必要とする対象	講義 90 分		
3 回	3. 国際看護活動を推進する人、機関	講義 90 分		
4 回	4. 国際活動の実際 1) 海外における看護活動 2) 在日外国人に対する看護活動	講義 90 分 講義 90 分		
5 回	5. 災害看護の概要 1) 災害看護の概要 2) 災害医療の基本と対応、体制	講義 90 分		
6～8 回	6. 災害看護の実際 1) 災害急性期の看護 2) 災害中、長期の看護 3) 被災者と救援者に対する心のケア 4) 災害に備える活動	講義 270 分		
9～10 回	7. 災害時に必要な技術 1) トリアージ 2) 搬送 3) 応急処置 4) エマルゴ研修	講義 180 分		
11 回	8. わが国の災害対策と国際協力	講義 90 分		
12 回	9. エイズ疾患治療	講義 90 分		
13 回	10. エイズ感染率(諸外国との対比)	講義 90 分		
14 回	11. エイズ予防対策(日本と諸外国国連)	講義 90 分		
15 回	講義のまとめ・テスト	講義 45 分 試験 45 分		
評価方法	筆記試験 レポート			
教科書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践【3】 災害看護学・国際看護学 医学書院			
備考				

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 看護の統合と実践	84 看護管理	1 単位	15 時間	3 年

科目担当者：看護師

学習目標	1. 看護管理の目的と機能について理解する。 2. 組織の一員としての看護師の役割や行動を理解する。 3. リーダーシップとメンバーシップを理解し、マネジメントの基礎を理解する。 4. 看護を経営的・経済的側面から考えられる。			
回数	教育内容	時 間	方法と留意点	
1～2 回	1. 看護管理過程 1) 看護管理の定義・目的・対象 2) 看護サービスとマネジメント (1)組織と看護部の組織 (2)看護ケア提供システム (3)多職種との連携・協働 (4)リーダーシップとメンバーシップ (5)マネジメントサイクル (6)人的資源・業務・労務管理 3) 看護師の業務とその管理	講義・演習 180 分	看護管理について看護学原論との関連で深める グループワーク	
3 回	2. 看護の質の保証と看護管理	講義 90 分		
4 回	3. 組織の調整 1) 集団 2) 組織文化と組織風土 3) 組織におけるコミュニケーション 4) 動機づけ 5) パワーとエンパワメント 6) コンフリクト 7) 変化と変革	講義 90 分		
5 回	4. 看護と経営 1) 組織の理解 2) 経営とは 3) 臨床で学ぶ看護の経済性	講義 90 分		
6 回	5. 看護と診療報酬体系	講義 90 分		
7 回	1) 診療報酬とその仕組み	講義 90 分		
8 回	2) 看護必要度			
	6. 組織と個人キャリアとキャリア形成 1) キャリアの発達と開発 2) キャリア開発のための教育と今後の課題 テスト	講義 90 分 試験 45 分		
評価方法	筆記試験			
教科書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践【1】 看護管理 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院			
備考				

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 看護の統合と実践	85 医療安全管理学	1 単位	30 時間	3 年

科目担当者： 非常勤講師

学習目標	1. 医療安全を学ぶ意義を理解し、医療安全に関心をもつ。 2. 看護業務に関わるインシデント・アクシデント事例の発生要因と対策を理解する。 3. インシデント・アクシデント事例の再発防止・未然防止の考え方を理解する。 4. インシデント・アクシデント事例の再発防止のための分析手法を理解する。 5. 自分もエラーをする可能性に気づき、実践的医療安全トレーニングの意義を理解する。 6. コミュニケーションエラーの発生要因を学び、防止対策を理解する。 7. 己を振り返り、リスクセンスを磨く意義を理解する。		
回数	教育内容	時 間	方法と留意点
1 回	1. 医療安全を学ぶ意義、ヒューマンエラー	講義 90 分	演習を取り入れ、医療安全 対策の実際について考える
2 回	2. 医療安全の動向と現状、K Y T	講義 90 分	
3 回	3. 看護業務とインシデント・アクシデント	演習 90 分	
4 回	4. インシデント・アクシデントと法的責任	講義 90 分	
5 回	5. 事故の再発防止と未然防止の考え方	講義 90 分	
6 回	6. 再発防止のための RCA（根本原因分析法）の 概要と実際	演習 90 分	
7 回	7. RCA 事例分析の実際	講義 90 分	演習を取り入れ、医療安全 対策の実際について考える
8 回	8. RCA 総括、再発防止対策	演習 90 分	
9 回	9. 実践的医療安全トレーニングとは 1) MITT の医療安全と実際	講義 90 分	
10 回	10. MITT 演習	演習 90 分	演習を取り入れ、医療安全 対策の実際について考える
11 回	11. MITT 演習、総括	演習 90 分	
12 回	12. ハンドオフコミュニケーション	講義 90 分	
13 回	13. リスクアセスメントとは、体験	講義 90 分	
14 回	14. チーム医療の推進	講義 90 分	
15 回	講義まとめ・テスト	講義 45 分 試験 45 分	
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践【2】 医療安全 医学書院		
備考	参考図書 RCA 根本原因分析法 実践マニュアル 医学書院		

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 看護の統合と実践	86 臨床実践技術	1 単位	15 時間	3 年

科目担当者： 看護師

学習目標	1. 臨床に近い状況下における複数患者への看護を通して、優先すべき援助の判断や対応する力を養う。 2. 複数患者の状態や状況に合わせた援助を計画し実施できる。			
回数	教育内容	時 間	方法と留意点	
1～2 回	1. 臨床実践技術の位置づけと背景 2. 臨床看護実践の特徴と課題 1) 実習と臨床現場との相違 (1)複数受け持ち (2)職種間の協働、チーム医療の充実 (3)割り込み状況 2) 新人看護職員の離職と対策 3. 看護の事例をどう読み解くか 1)看護に必要な状況分析と判断 (1)症状 (2)データ (3)診断名 (4)治療方針 (5)問題点 (6)看護 (7)過不足の情報	講義 90 分 演習 90 分 グループワーク	・臨床看護実践を学ぶ意義について理解する ・看護の統合と実践がカリキュラムに新設された背景について、実習経験から考える。 ・複数事例のうちの 1 事例について講義し今後の課題について明確にする。同様に他の複数事例についても必要な看護を導き出す。 ・学生個々に 2 事例を指示し、2 事例の行動計画、援助計画を立案する。	
3～4 回	4. 優先順位の考え方と安全性 5. 看護専門職に求められる看護実践能力 6. 複数の患者の状況に応じた援助(事例学習) 1) 複数患者の理解に必要な基礎知識 2) 複数患者に必要な看護援助 7. 2 事例の患者の状況に応じた援助 1) 2 事例の患者の優先順位を踏まえた行動計画の立案 2) 2 事例の患者の優先順位を踏まえた援助計画の立案 3) 2 事例の援助方法の検討	講義 45 分 演習 135 分 個人作業	・2 事例の援助計画に基づいて演習を行い、演習を通して援助計画を評価修正する。 ・必要な看護技術の練習を行う	
5～6 回	(1) 安全安楽の確保 (2) 自立度に応じた援助 (3) 優先順位を考慮した援助 (4) 限られた時間内での効率性的な援助 (5) 突発的事象、割り込み状況への対応 ①予期しない患者の反応 ②突発的な事態 ③時間の切迫 (6) チームメンバーとの連携 4) 評価・修正 (1) 計画の妥当性 (2) 割り込み状況への対応	演習 180 分		
7 回	8. タイムプレッシャーの中での複数患者への援助の実際 1) 患者の安全・安楽を守りながら実施できる。 2) 自立度に応じて実施できる。 3) 優先順位を考慮して実施できる。 4) 限られた時間で効率的に実施できる。	演習 90 分	・2 事例の患者役を設定し援助計画にそって援助を実施する。その結果を踏まえて援助計画	

8 回	5) 突発的な割り込み状況に対応できる。 6) 患者に十分な説明ができる。 7) 必要に応じて相談や助けを求めることができる。 ＜複数患者の設定＞ ・成人期あるいは老年期の患者 2 事例の受け持ち 急性症状を呈する患者とセルフケア不足の患者など 診療の補助技術と生活支援援助の組み合わせ ＜含まれる看護技術＞ ・フィジカルアセスメント技術、コミュニケーション 技術、生活支援援助、治療処置援助（輸液療法・ 膀胱留置カテーテル・経管栄養法・創傷処置・関節 可動域訓練・気管内吸引など） 試験	試験 45 分 (レポート)	に追加修正を加える。 ・限られた時間内で患者役の学生に援助を実施する。 ・教員・他学生の客観的評価を踏まえて自己の振り返りを行うことにより、自己の課題の明確化につなげる
評価方法	日々の提出課題・グループワークの参加度・振り返りレポート・最終レポート		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学【2】 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践【2】 医療安全 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学【4】 臨床看護学総論 医学書院 川村治子著 医療安全ワークブック 第2版 医学書院		
備考			

分野	科目	単位	時間	履修年次
専門分野 看護の統合 と実践	87 統合実習	2 単位	80 時間	3 年次後期

科目担当者：専任教員

実習目的	既習の知識と技術を統合し、看護職の倫理に基づく対象への看護実践能力を修得する
	実習目標及び内容
	1) 病棟の看護管理の実際について理解できる。 (1) 病院組織における看護管理について述べることができる。 (2) 病棟のシステムについて述べることができる。 (3) 病棟管理者の役割・業務について述べることができる。 2) 看護チームにおけるリーダー・メンバーの役割について理解できる。 (1) 看護チームリーダーの役割と業務について述べることができる。 (2) 看護チームにおける申し送りやカンファレンスの意義について述べることができる。 (3) 看護チームメンバーの役割と業務について述べることができる。 (4) 看護活動を継続するために看護チーム全員が協力することの重要性について述べることができる。 (5) 事故を未然に防ぐためのコミュニケーションについて述べることができる。 3) 複数の対象者に対し、限られた時間内で実習病棟のケアプランに則って必要なケアを判断し提供する。 (1) 焦点を絞った観察から目の前の対象の変化に気づくことができる。(初期把握) (2) 把握した情報を既習学習と関連させて意味付け、患者の状態を解釈できる。 (3) 解釈をもとに患者に必要な看護を選択している。 (4) 複数の対象者を受け持ち、時間の見通しを立てたケア計画を立案できる。 (5) 優先順位を考慮した複数患者の援助が実施できる。 (6) 実践した看護を振り返り、評価することができる。 4) 他部門における看護の実際について知ることができる。 (1) 他部門（外来、地域連携室、透析室、医療安全管理室など）における看護師の役割と業務について述べることができる。 5) 保健医療福祉のチームにおいて、安全かつ効率的に看護を実践していくための役割遂行、看護管理、多職種との連携・協働について理解できる。 (1) 病院内で活動しているチーム医療の連携・協働の実際について考察することができる。 6) 看護師として必要な態度や自己の課題を明確にする。 (1) 実習での経験をふまえて働く自分をイメージし、看護師を目指す自己の課題を明らかにし、考察することができる。 7) 保健医療福祉チームの一員として看護者に求められる基本的姿勢を身につける。 (1) 自身のマネジメント（健康管理、時間管理、情報管理）をし、責任を持った行動がとれる。 (2) よりよい看護を実践するために主体的に学習に取り組むことができる。 (3) チームの一員として適切な人間関係をもつことができる。
評価方法	評価表に基づき評価する